＜分科・分散会＞

第１分科・分散会　「平和・組織・教育・人権・文化・組織」（1 階　山中ホール　前方 101 号室）

会場責任者　鍋島初美（日退教副会長）
坂田　勲（日退教副会長）
司　　会　藤崎喜仁（組織部会）
太田洋吉（組織部会）
記　　録

リポート

① 教育のセフティネットについて考える　―自主夜間学校「いいあす京都」の挑戦―（京都）

② 山口県の民衆は負けない（山口）

③ 若い人にとう「戦争の記憶」を伝えるか(静岡)

④ 組織強化に向けた北退教の活動について（北海道）

⑤ 「組織拡大・強化と愛知退教連の目的」（愛知）

⑥ 島根原発２号機運転差止仮処分裁判の取り組み(鳥取県)

《第29回 日退教組織活動交流集会レポート》

教育のセーフティネットについて考える
－自主夜間学校「いいあす京都」の挑戦－

自主夜間学校 いいあす京都 代表 川端宏幸

1.プロローグにかえて

2023年5月27日、京都市に自主夜間中学が開校した。そこに集う生徒さんにとって、そして、生徒さんの学びの伴走者であるスタッフにとって、「いい明日」が訪れることを願って、自主夜間学校「いいあす京都」は誕生した。

「いいあす京都」は年齢や国籍、学歴、障害のあるなしなどに関わらず、誰でも通える学校。かつて十分に学校に通えなかった大人たち、現在学校に通うことが難しい不登校の子どもたち、日本語を学びたい外国出身の人たちなど、だれでも安心して通える学びの場だ。現在、生徒は25名を超えている。学習を支えるスタッフも30名を超えた。「いいあす京都」は何らかの理由で学びから排除された、いわゆる“教育難民”の“学び直し”をサポートし、彼らの自己実現に向けて寄り添いたいというボランティアの志によって成り立っている。

昨年の春、ぼくは定年退職を迎えたが、退職前までは「いいあす京都」を立ち上げるなんて予想だにしていなかった。むしろ、退職後の身の振り方に大きな不安を感じていた。そんなぼくを支えてくれたのが「きょうと教組（以下、教組）」と「京都府退職教職員協議会（以下、京退教）」の仲間だ。教組や京退教は人と人をつなぎ、自分らしく生きていくためにここぞという時に力を貸してくれる存在であることを再確認した。定年の一年半前にぼくは鬱を患い休職を余儀なくされた。そして休職と引き換えに長年勤めた教頭職を辞することとなった。苦渋の決断ではあったが、この決断がぼくの退職後の人生を大きく変えることになるとはこの時はまだ知る由もなかった。

管理職を辞したぼくはある種自由を取り戻した。独りよがりなプライドや見栄や上昇志向といった呪縛から解き放たれたのだ。立場的にも自由の身となり教組への再加入を阻むものはもうなくなった。大手をふって教組に戻ることができた。これで本来の自分を取り戻すことができるという思いがふつふつと湧いてきたのを覚えている。古い仲間たちは歓迎してくれた。休職中の一教諭に休職の条件や復帰するための心得などの様々な権利について情報提供をし、相談に乗ってくれた。初めて経験する休職。心のエネルギーも枯渇している。しかも定年退職が目の前だ。教組がぼくを不安の淵から救い出してくれたのだ。どれだけ心強かったことか。定年後の再任用についての教育委員会との交渉も行ってくれた。しかし、ぼくは再任用で教育委員会や学校に残ろうとは思っていなかった。教職にはピリオドを打とうと思っていたのだ。

退職後の新しい職を探しているとき、いわゆる就活を生まれて初めてしているときのことだ。教組の仲間が就職先を紹介してくれた。それが現在勤務している「京都部落問題研究資料センター（以下、資料センター）」だ。前任者の退職に伴い新しい人材を紹介してほしいと教組に依頼があったのだ。誰でも務まる職場ではなかった。部落史に関する知識や、解放運動の歴史や情勢も知らなければならない。この条件が

資料センターとぼくを出会わせてくれたのだ。ぼくは新採から１５年間、京都の北に位置する千本部落（被差別部落）を校区に含む嘉楽中学校で同和教育を学び実践した。さらに、嘉楽中から同じ千本部落を校区に含む鷹峯小学校に異校種異動し8年間同和教育に携わることとなる。教員生活の実に三分の二の期間、被差別部落とかかわり同和教育推進に努めたのだ。その縁もあって資料センターの職員就任の白羽の矢が立ったのだ。

現在「いいあす京都」は事務局を資料センターに置いている。週に2日の学習会もこの資料センターが入る「京都府部落解放センター（以下、解放センター）」の一室を無償提供してもらって実施している。ぼくがいくら「いいあす京都」を立ち上げようと思っていたとしても、資料センターに勤めていなければきっと開校はできなかっただろう。教組に戻っていなかったら資料センターに勤めることはなかった。教組に再加入したことが「いいあす京都」の起点となったことはいうまでもない。

現在、ぼくは京退教の一員であるが、京退教の仲間も「いいあす京都」の運営に携わってくれている。いざという時にいつも力を貸してくれる頼もしい仲間がいてくれるのだ。教組、京退教としても「いいあす京都」に様々な支援をしてくれている。中古ではあるがパソコンの提供も受けた。印刷が自由にできた方がいいだろうと教組が今まで使っていたプリンターも譲ってくれた。この場をかりて組合と京退教、そして、その仲間たちに感謝の意を表して、京退教の一員として「いいあす京都」の報告をおこなう。

2.“教育難民”の現状と夜間中学

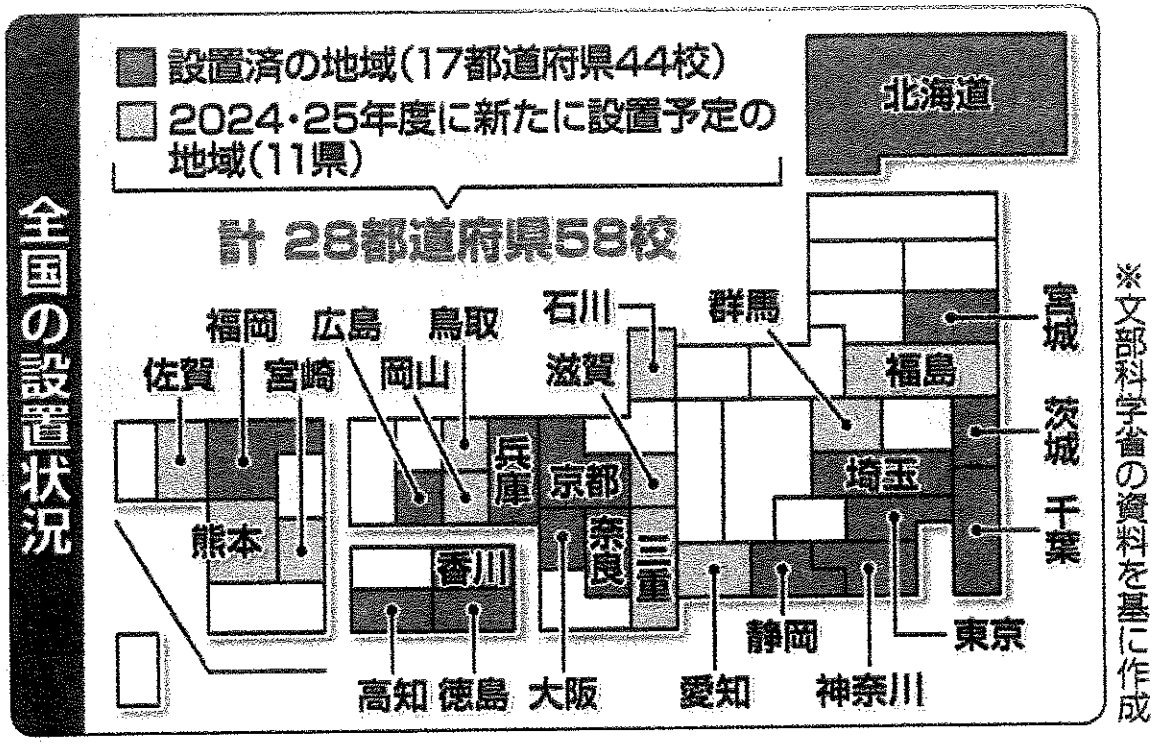
2020年の国勢調査から義務教育未修了者が90万人近くに上ることが初めて明らかになった。不登校や無戸籍児、貧困や虐待など様々な理由で学校にほとんど行くことができず、実質的に教育を受けられないまま義務教育を終えたいわゆる“形式卒業者”を合わせると、その数字はもっともっと大きくなる。先日２０２２年度の不登校児童数が発表された。約30万人だ。過去最高であった2021年度の24.5千万人を大きく上回った。不登校児童生徒数は毎年増加、そして“形式卒業者”は、毎年毎年積みあがっている。

一方で2019年4月に外国人労働者の受け入れを拡大するなど「入国管理法」の改定があり、外国からの移住者が急激に増えていることも見逃すことができない。中には日本語を理解できないまま入国している外国人も多く存在している。日本語習得をはじめ日本社会で生きていくために必要な教育を求めている人たちも急増しているのである。彼らもまた“教育難民”である。ここまで膨れ上がった義務教育未修了者や形式卒業者などの「学び直し」や、外国人労働者やその家族などの「日本語の習得」といった生きるため権利として教育を保障するのはいったい誰なのだろうか。だれもが等しく受ける権利のある教育から排除された“教育難民”の問題は大きな社会問題である。

現在このような“教育難民”の受け皿となっているのが公立夜間中学である。公立の夜間中学は「教育の最後の砦」と呼ばれたり、「教育のセーフティネット」などと評されたりするが、残念ながらまだまだ解決していかなければならない課題があり、様々な矛盾を内包している。

2016年に制定された「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律（以下、教育機会確保法）」は、不登校の児童生徒に対する教育の機会の確保、夜間などに授業を行う学校における就学機会の提供などの施策に関して、基本理念や国・地方公共団体の責務などを規定し、夜間中学の設置・拡充を謳っている。具体的な目標として文部科学省は各都道府県・政令市に１校以上の公立夜間中学設置をめざすとしている。先に述べた2020年の国勢調査結果を受け、公立夜間中学の設置・充実に向けた取組をさらに推進している。

2019年11月には「子供の貧困対策に関する大綱」に於いて、公立夜間中学の設置を促進するとともに、充実を図ることを明言している。また、2021年1月には当時の菅内閣総理大臣が衆議院予算会議に於いて「今後5年間ですべての各都道府県・政令市に公立夜間中学を少なくとも1校設置することをめざす」と答弁した。その成果として教育機会確保法成立当時31校（8都道府県）であった夜間中学は、現在では44校（17都道府県）にまで拡充。しかし、未だに30の県が未設置であり早急な設置が喫緊の課題である。



夜間中学は時代状況を映し出す「社会の鏡」、「社会の縮図」ともいわれる。その歴史は戦後の混乱期にまでさかのぼり、経済的理由で昼間に働かざるを得なかった子どもたちのために設けられたのが始まりである。全国夜間中学校研究会によると、ピーク時の1950年代半ばには全国８９校に5208人の生徒が在籍したが、経済成長や就学援助制度の整備で当初の役割を果たしたこともあり急減。1966年には当時の行政管理庁が夜間中学の早期廃止勧告を出し、60年代後半には学校数20校、生徒数416人にまで減ったものの、需要は途絶えず、教育機会確保法制定当時は31校で1660人が学んだ。

開設当初は不就学や長期欠席の生徒が主だったが、70年代に入ると差別や貧困などで学校に通えなかった在日韓国・朝鮮人が増加し、1972年の国交正常化に伴い中国からの帰国者（引き揚げ者）も多数入学。90年代になると、国際結婚や仕事などで来日した人やその家族の新渡日外国人（ニューカマー）が増え、現在では約8割を外国籍の生徒が占めている。また、近年は不登校などで十分な教育を受けないまま卒業した“形式卒業者”が増加。夜間中学は社会の変化に対応しながら、年齢も国籍も背景も多様な生徒たちを受け入れている。

このような現状の中、学習に困りを抱え、学び直しを希望する人たちのために学びの場と機会の提供するために市民ボランティアが組織運営する自主夜間中学が全国に増えてきている。特に公立夜間中学未設置の都道府県・政令市では自主夜間中学のニーズが高まっている。多くの自主夜間学校は公立夜間学校の増設運動を繰り広げながら“教育難民”の学びを支えている。

3.自主夜間学校「いいあす京都」の存在意義と開校を決意させたもの

「いいあす京都」がどのような活動をしているのか、このフライヤーを参照してほしい。

年齢・国籍・学歴などに関わらず だれでも通える学びの広場

生徒・ボランティアスタッフ 募集中！

授業料無料

e as KYOTO

不登校の人も安心して通えます

日本語を学びたい人も大歓迎です

今まで十分に学べなかった人のための学校です

〈会場〉
京都府部落解放センター
地下鉄烏丸線「鞍馬口駅」下車 北へ 250m

〈学習日〉
毎週　月・金曜日（祝日は休み）

〈学習時間〉
① 17:30～19:00
② 19:00～20:30 ※詳細は相談

〈学習内容〉
国語・社会・算数(数学)・理科
英語・日本語　※他は相談
いずれも義務教育程度

〈学習支援〉
元教員・現役教員・学生などのボランティアスタッフが共に学習します

〈参加費〉 1月 500円
※教材費・コピー代などに使います
（個人持ちの教材や文具などは自己負担）

〈保険代〉 1年 300円
※けがや器物破損などに備えます

〈問い合わせ〉
tel・fax 075-415-1032
ケイタイ 080-7733-1658
E-mail info@e-as.school
ホームページURL e-as.school

自主夜間学校 いいあす京都

本事業は「京都府地域公共プロジェクト」並びに「一般財団法人YS市民コミュニティー財団」の助成事業です

京都府（政令市としては京都市）には不登校特例校と夜間中学を併設する京都市立洛友中学校がある。その前身は京都市立郁文中学校で1968年に二部学級（夜間中学）が創設されている。洛友中は教育のセーフティネットの役割を担っているが、学び直しを望むすべての人たちが入学できるわけではない。公立であるが故の一定の入学条件があり、夜間中学に入学できない、教育の最後の砦にもたどり着けない“教育難民”がいることを忘れてはならない。自主夜間学校「いいあす京都」は洛友中の補完的役割を担っていると自負している。下は洛友中の入学の応募資格である。どのような人が入学できて、どのような人が入学できないのか読み取ることができよう。

1.応募資格（※次の全てに該当する方を対象とします）

（1）平成20年4月1日以前に生まれた方

（2）義務教育未修了の方、または義務教育を修了したものの実質的に十分な教育を受けていないと認められる方

※原則として、高卒以上の方は義務教育以上の教育を受けているものとし、入学の対象としません。

（3）京都市内に住んでいる方、または京都市内で働いている方（京都市内通勤者※）

※令和2年度入学生から対象。京都市内通勤者に府内在住等の居住要件はありません。就業形態は問いません。

（4）3年間通学が可能な方

《京都市ホームページより引用》

① ひとりの女性との出会い

昨年の夏、一人の女性と出会った。彼女は学び直しの場を求めていた。出会ったときは京都から転居してでも岡山自主夜間中学に通おうとしていた。もともと彼女は洛友中（夜間部）への入学を希望していた。書類を提出。学校説明会にも参加。面接も受け、学力テストも受検したという。彼女は小学校３年生から中学校卒業まで不登校であった。“形式卒業者”として洛友中に受け入れられるべき存在である。しかし、彼女の入学は拒否されたのである。それは上記の応募資格の（2）の※印の『原則として、高卒以上の方は義務教育を受けているものとして、入学の対象にしません。』という規定に抵触したのだ。

彼女は中学を“形式卒業”の後。地元の定時制高校に通うことを決意する。しかし、その時はまだ不登校を克服したとは決して言い難い状況であった。それでも社会に出て独り立ちするために意を決して入学。４年間辛抱に辛抱を重ねてなんとか卒業。卒業証書はどうにか手にしたものの高校の学習内容など全く分からなかったという。「小学校の割り算もわからないのに高校の数学Ⅰがわかるはずがない」と彼女は言う。「授業中自分の席にじっと座っているだけでもしんどかった」と彼女は当時を振り返った。

高校卒業の資格を得たおかげで彼女は希望していた日本料理店への就職。しかし、基本的な計算ができないという現実が彼女を苦しめる。板場という閉鎖的で年功序列、男性優位の職場の荒波が容赦なく襲い掛かったのだ。計算ができないことを執拗に詰られ、人格をも否定され続けた。１年余りで職場を追われた彼女はその後5年間引きこもってしまう。

彼女が言う暗黒の5年間にもやがて光が差し、彼女は学びの重要性に気づき、学び直しを決意し、洛友中への入学を強く希望することとなったのである。書類上、彼女は確かに高卒である。しかし、その学びの実態は明らかに“形式卒業者”なのだ。学習空白が彼女にもたらした現実はあまりにも残酷だった。人生の中でも最も多感で輝かしい時期を失ってしまったのだ。たった１行の規定のせいで学び直しする機会と場所を奪われてしまったのだ。彼女は「学歴」と「学習空白」の狭間を彷徨う人生を翻弄された“教育難民”なのだ。

この現実は公立夜間中学が抱える矛盾の一つである。洛友中だけの問題ではない。全国ほぼすべての公立夜間中学は高卒者の受け入れをしていない。

実はぼくの最後の勤務校は洛友中である。当時、教頭として入学希望者の対応をしていた。しかし、彼女とは面識がなかった。ぼくは即座に自分が休職している間の出来事だと解釈をした。「もし休職していなかったら自分が対応していたかもしれない。もしそうだとしたら自分はどうしていただろう。」という疑問が脳裏に浮かんだ。その時、得も言えぬ罪悪感を覚えた。きっとぼくは教頭として事務的に彼女の入学を断っていたことだろう。ルールにのっとって対応するのが教頭の本分である。

彼女の場合とはケースは異なるが、ぼくにも何度か入学を断った経験がある。入学希望者が納得できるように丁重にお断りしたのだが、こんな罪悪感は感じていなかった。ぼくは心を痛めることなく、一教頭にはどうしようもないことではあるが、学び直したいという切なる願いを受け止めようともせずに、平気で踏みにじっていたということにこの時初めて気づいたのだ。

彼女は奈良県の公立夜間中学にも問い合わせたが、三校とも同じ理由で入学を断られている。そんな彼女がたどり着いたのが岡山の自主夜間中学であった。学び直しをするために岡山に引っ越すという彼女の決意を聴いて学び直しの意義とその重さを思い知らされた。夜間中学の教頭をしておきながら学び直しの本当の意味は分かっていなかった。そして同時に、公立夜間中学に入れない人は本当に行き場がないのだということを肌で感じた。気づかないうちに自分自身が彼女らを排除し“教育難民”にしていたという事実を突きつけられたのだ。その時の脳裏に走った激しい衝撃を忘れることはできない。これがぼくの心の中の“差別性”だと気づかされた。

② 識字学級の魂と現代のニーズ

こんなはずではなかった。学級担任をしていた頃は困りを抱えた生徒たちを何とかしようと本気で取り組んでいたはずだ。同和地区の生徒のための「補習学級」や「進学促進ホール」などの施策の意義も理解し進んで取り組んできたはずだ。部落のおかあちゃんたちと一緒に「識字学級」にも通った。それらはみな教育的弱者の“ねがい”を叶えるための行動だったはずだ。夜間中学は教育のセーフティネットではないのか。自分はこんなにいとも容易く学び直しをしたいという切なる“ねがい”を打ち砕いていたのか。この時思い知らされたのである。教育の最後の砦からもこぼれ落ちてしまう人たちがいるという現実を本当に理解したのはこの時だった。それまでのぼくは偽物だったのかもしれない。

彼女に出会ったその日、ぼくは自主夜間学校を自分の手で創ろうと決心をした。彼女の通える学校を創ろうと思ったのだ。ぼくの勤める資料センターの開室時間は午前 10 時から午後 5 時までである。5 時になったら資料センターは閉室する。しかし、資料センターが入る解放センターのビルは 9 時までは開いているのだ。つまり 5 時から 9 時の間、資料センターは使用されていないのだ。ぼくが勤務を終えても帰らずにその時間資料センターの扉を開けさえすれば学びの場は確保できるのだ。ぼくが本気になって決心したら自主夜間中学は成立するのだ。

しかし、無責任な事はできない。勝手には始められない。解放センターの許可を得る必要もある。一度やると口に出してしまったらやめることはできない。仲間の協力も必要だ。大変なことは容易に想像ができる。それでもぼくの気持ちは止まることはなかった。彼女のような人たちのために学校を創ろうと決心

するのにそれほどの時間はかからなかった。解放センターを運営する「一般財団法人　京都府部落解放協会」は解放センターの会議室の無償提供のみならず、経済的なバックアップも約束してくれたのだ。

京都市の被差別部落にも古くから、差別によって奪われた文字をとり戻すための識字学級が存在していた。1962年に九州の筑豊で始まった識字運動が全国に広がり、各地の被差別部落で識字学級が開設された。2020年の調査では全国で130の識字学級が活動をしている。1983年は292か所活動していた。しかし、2010年には京都市内から一斉に姿を消した。被差別部落の識字運動は単に文字の読み書きを身に付けることを意味するものではなかった。生い立ちを語りあい綴ることを通して部落差別によって文字を学ぶ機会を失ってきたことを学び、部落差別を跳ね返すために文字を自分ものとすることこそが追求されてきた。解放センターで「いいあす京都」を開設する以上は、そんな識字学級の魂を引き継ぎながら現代のニーズにマッチした自主夜間学校を築いていきたい。

ここで一つ断っておきたい「いいあす京都」は「自主夜間**中学**」とは名乗っていない。「自主夜間**学校**」だ。それは高卒の資格を持っている人でも学び直しがしたいなら喜んで迎え入れたいからだ。小学生にも通ってほしい。だから「**中学**」ではなく「**学校**」なのだ。

京　春秋　東京　光明　2022年(令和4年)11月13日　日曜日

公立夜間中に通えなくても諦めないで

「自主夜間学校」で学び直しを

京で来春開校予定

元教員ら　学歴・居住地・年齢問わず

居住地や学歴などを問わず、学びたい人が自由に就学できる「自主夜間学校」の開校準備が、京都市内で進められている。公立夜間中学校の制度から漏れ、通学がかなわない人を受け入れる「学びのセーフティーネット」として、元教員ら有志が来年4月の開校を目指している。

夜間中学は、戦後の貧困の事情で義務教育を十分に受けられなかった人に加え、近年は不登校を経験した人や外国籍の子どもらが通うなど多様な学びの受け皿になっている。国は2017年度までの教育機会確保法で、都道府県と政令市に1校以上の夜間中学設置を促しており、現在は京都市立洛友中（下京区）を含め、15都道府県に計22校ある。

一方、いずれも公立校のため、居住地や年齢、学歴などの要件が設けられている。通いたくても通えない人もいることから、誰もが自由に学び直せる場をつくろうと、格安中の元教員で「京都自主夜間学校・交流センター」（北区）の川端茂孝さん（61）が、京都での自主夜間学校設立準備委員会を10月に立ちあげた。

夜間中の元教員や小中学校の現役教員、大学生、外国籍の子育て支援団体メンバーら約40人の委員が、実行委員会をつくり、ボランティアで指導に当たる。京都市伏見区のセンター（同区）を拠点とし、義務教育を終了しようとする学力や居住地、年齢などを問わず、学習を希望する人を無料で受け入れる。開校の取り組みは全国でも広がっており、住地域で自主夜間学校を運営する団体を結び、学習支援などを行うなど、来春の開校までに体制を整える。

20年の国勢調査で、最終学歴が「小学校卒業」の人や、小中学校を「未就学」の人は約8万人に上ることが判明。うち高齢者は約1万3千人、義務教育は約1万7千人といい、川端さんは「教育の最後のとりでとなる夜間中学を拡充する必要を感じていた。生涯学び直せる場を求める声は相当数あり、誰もが安心して学べる学校にしたい」と話す。

入学希望者には、義務教育から学び直しを随時始めるなど、指導ボランティアも募っており、問い合わせは準備委事務局（075-575-1032、平日夕）。（平野雄）

自主夜間学校設立の趣旨を説明する川端さん（左から3人目）＝京都市北区・京都府部落解放センター

③「いいあす京都」の役割

前頁の新聞記事は「いいあす京都」の準備会立ち上げの様子や、めざすところを報じてくれている。

網掛け部分に記されているが、先述したように、京都市には洛友中学校があり、公の立場で義務教育の機会を保障している。いわば公教育の最後の砦。だが、入学できる人は限定的である。学び直しを希望しても、京都市在住か市内に勤務する者にしか入学は許されない。“形式卒業者”であっても高卒以上の資格を有していれば、原則として門を閉ざされてしまう。週５日の通学と全教科の学習が求められ、入学後ずっと学びつづけたくても、６年の卒業年限が否応なしに再び学びを奪ってしまう。公立の壁が学びたいのに通学できない人を生み出しているのである。一方、ぼくたちの自主夜間中学には公立の壁は存在しない。めざすところは最後の砦からも排除された人たちを温かく受け入れる学びの場。公立夜間中学の補完的役割。いわゆる“教育難民”をなくしていくことが使命だと考えている。

現在「いいあす京都」には洛友中の出身者が4人（A、Bは卒業、C、Dは中退）通っている。ほかに入学を希望したが入学を果たせなかった人も3人（E、F、G）。総勢26人の生徒の中の7名が洛友中と何らかの関係があるのだ。彼らの“ねがい”と現実を個別に記すと公立夜間中学の課題と矛盾、そして補完的な役割の必要性が見えてくるはずだ。

《洛友中卒業者》

A（70代女性）洛友中卒業後、定時制高校へ進学したが学習についていけず中退。中学の基礎的な学習をやり直して、もう一度、定時制高校に挑戦しようとしているが、再入学は認められなかった。

B（60代在日コリアン女性）5年間洛友中に在学し卒業。日常生活に必要な日本語を学ぶことが目的なのに、全教科の授業を受けなければならなかった。日本語は苦手だが数学はできた。体調的に体育がつらかった。本当に望んでいることを学ぶために多くの時間を費やさねばならなかった。

《洛友中中者》

C（70 代女性）2 年間在学の後中退。数学の授業についていくことができなかった。複数生徒での授業だったので他の生徒への遠慮と恥ずかしさがあり質問ができなかった。

D（60 代在日コリアン女性）1 年間在学の後中退。自分が学びたい学習内容と違った。複数で学ぶ授業で他の生徒と隔たりを感じた。

彼女らは「いいあす京都」で活き活きと学習している。できれば洛友中に通い続けたかったに違いない。しかし、それぞれのニーズと実態に合っていなかったのだ。洛友中に教頭として勤務していた時にB、C、Dは在学していたが、本当の思いに寄り添うことはできなかった。逆に喜んで通ってくれているとすら思っていた。こうして「いいあす京都」を立ち上げて初めて彼女らの思いを知ることとなった。「いいあす京都」では自分が学びたいことを一対一で学ぶことができる。一人一人の自己実現を確かなものにしてほしいと願ってやまない。

《洛友中に入学できなかった方々》

E（30 代女性）先程紹介した彼女である。実態は小学校から“形式卒業者”であり読み・書き・計算の基礎が習得できていない。しかし、高卒の資格を有するがゆえに入学を許されなかった。

F（50 代男性）入学の応募資格は満たしているものの、仕事（個人タクシーの運転士）のために週 5 日間も通うことができないと諦めた。

G（10代男性）中学3年生時に不登校。現役での高校進学を逃した過年度生。年度途中に高校進学を決意し、その準備のためにも学べなかった中3年の学習を学び直したいと入学を希望した。しかし、年度途中の入学は認められなかった。

彼らもまた積極的に「いいあす京都」に自分の“ねがい”叶えるために通っている。入学を高校卒業の資格が邪魔をしたり、通学日数のハードルが高かったり、随時入学が認められていなかったり、はたまたAさんのように再入学が認められなかったり、“教育難民”たちの前に立ちはだかる公立の壁があることを知ってほしい。これらの壁は法的な束縛はない。学校を設置する地方自治体の判断で取り除くことも、軽減することもできるのである。自主夜間中学にはこのような公立夜間中学が内包する矛盾を補完する役割も期待されていると思っている。

結果的には「いいあす京都」には通っていないがH（10 代男性）のような存在も忘れてはならない。京都市の近郊の城陽市に住まうHは、父親のネグレクトが原因で中学3年生時に不登校。卒業するころにようやく登校の兆しが見られた。中学校を“形式卒業”した後、洛友中への入学を考えたが、先述した「応募資格」の（3）の居住地が京都市でないために入学対象ではなかった。（この居住地については、かつては「京都市在住」に限られていたが、「京都市在住・在勤（京都府在住）」へと門戸を広げている。現在では「京都市在住・在勤（居住地は問わない）へと洛友中も応募資格を緩和していることも付け加えておく。）この居住の問題もさらに改善したい課題である。

具体的な矛盾や課題を列挙したが、洛友中を批判する気持ちは毛頭ない。公立であるが故の限界があるということ。現代のニーズに対応するような制度改革が必要だということが言いたいのである。

全国に多くの自主夜間中学が存在するが、その成り立ちのほとんどが公立の夜間中学が設置されるまでボランティアで学びの保障をしようというものである。しかし、「いいあす京都」の場合は異例と言える。洛友中という公立の夜間中学がありながらも立ち上げたのだ。それは、公立夜間中も完ぺきな教育のセーフティネットではないということに気が付いたからだ。自分自身が洛友中に勤務していた時にはそんなことは全く考えていなかった。もっとたくさんの生徒に入ってきてほしいと思ったけれど、入学を希望しながら就学することができない人たちがこんなにたくさんいようとは思いもしなかった。ぼくたち自主夜間学校にできることなど高が知れている。あらゆる面で公立の夜間中学の方が優れている。だから、だからこそ、同じことをめざすのではなく、あくまでも公立の補完的役割を担っていきたいと思っている。学習に困りを感じている人たちの学びの選択肢の一つとしてこれからも活動していくつもりだ。

「いいあす京都」の準備委員会を立ち上げて 1 年。開校から 4 か月。現在では生徒が 25 名を超えた。これ程の短期間にここまで生徒が増えるとは思っていなかった。多くの“教育難民”が潜在的に確実にいるということを改めて実感している。公立夜間中学に通いたくても通うことのできない人たちがたくさんいることに驚いたというのが率直な感想だ。「いいあす京都」が生徒さんとスタッフにとって「小さな喜びを感じ、小さな幸せを見つける」ことができる学びの場であることを願っている。「いい明日」を夢見て活動を続けていきたい。

4.補い合い扶け合い、高め合う

次の記事は今年５月27日の開校を祝う会の記事だ。

朝日新聞　2023年(令和5年)6月26日(月)

自主夜間中 みんなに学びを

京都市に5月末、「自主夜間中学」ができた。それぞれに事情を抱える10～70代の21人が通い、ボランティアらが学習を支える。きっかけとなったのは、公立の夜間中学で教頭を務めた元退職教師の「後悔」だ。開校までの歩みを追った。(宝槻泰郎)

京都に先月開校

ボランティアの池田雅佳さん(左)に数学を教わる橋業和子さん=5月26日、京都市北区

公立夜間中元教頭の後悔と決意

京都市で猫2匹と暮らす橋業和子さん(76)は週2回、午後3時に家を出る。バスと地下鉄で1時間。岡市北区で開かれる自主夜間中学「いいあす京都」に通う。

2時間余りノートに向かい、苦手の数学を教わる。「学校の勉強って、さっさきっさと前へいくけど、ここでは一対一で教えてくれる」

橋業さんは68歳からの4年、京都市立として唯一の夜間中学、洛友中に通った。14歳で九州から関西へ出て働き、中学は卒業していなかった。

さらに定時制高校へも進学。しかし、数学の勉強についていけず、中退した。すでに卒業した洛友中には戻れない。高校の先生が「ここなら」と、いいあす京都のチラシをくれた。

代表の川端宏幸さん(61)は元中学教師。2018年度から4年、洛友中で教頭を務めた。昨年春に定年退職し、自主夜中を立ち上げた。

自主夜間中学

民間のボランティアらが運営する学習の場で、自治体が義務教育の未修了者らを対象に開く「公立夜間中学」に対応する呼び名。1970年代ごろから、公立夜中の増設を求める運動を基に各地に広がった。

「気付かぬうち」

きっかけは一人の女性との出会いにある。

昨年夏、岡山市で開かれた、夜間中の増設を求める集会に参加した際、知人から80代女性を紹介された。数年前、洛友中に入学を申し込んだが断られたという。中学は不登校だったが、定時制高校を卒業していたからだ。

公立夜中には入学条件がある。義務教育が未修了か十分な教育を受けていない人、市内に自宅か職場がある人、週5日通える人――。川端さんに女性との面識はなかったが、洛友中の教頭時代、市外の人や週1～2日しか通えない人に、「条件に合わない」と伝えた経験があった。

「気付かんうちに、彼女のような人の学びの場を奪ってたんや……」

その日のうちに、自主夜中の立ち上げを知人に相談した。活動場所には退職後に勤めている団体が入る、京都府部落解放センターの会議室を借りた。スタッフは、教員仲間や市民活動をする知人に声をかけた。

昨年10月、初の準備会には約30人が集まった。

写真は先程のⒶさんだ。Ⓐさんは定時制高校の数学についていけず退学を余儀なくされた。しかし、学びをあきらめきれず「いいあす京都」に通っている。“ねがい”は2年間通って苦手な数学と英語を克服して、もう一度高校に行くこと。彼女の夢は高校だけにとどまらない。究極の“ねがい”は大学進学だ。70代も後半の彼女だが学びに対する意欲は並々ならない。頭が下がる。

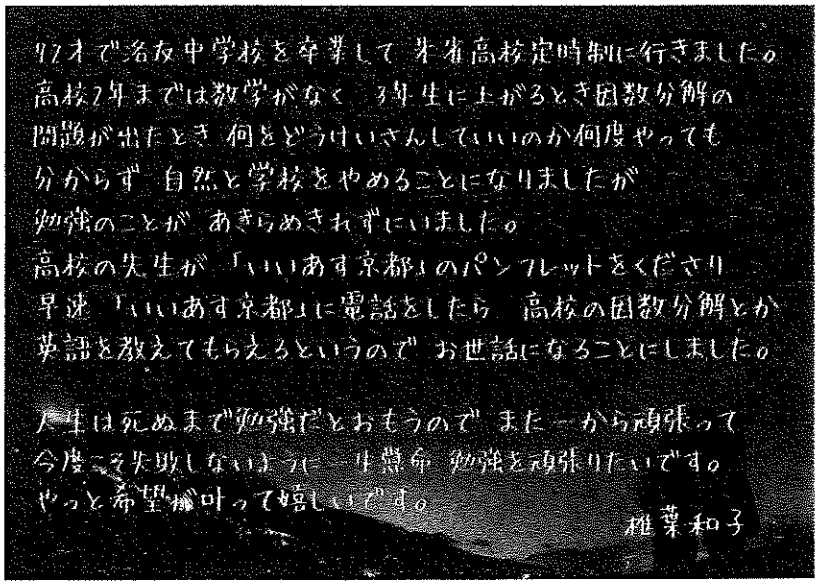
学習会は午後５時半から始まる。Ⓐさんは欠かすことなく出席している。しかも、毎回４時にはやって来る。担当のスタッフが来るまで黙々と自習をするのだ。このエネルギーはいったいどこから来るのだろう。ぼくにいままでⒶさんほど思いや姿勢があっただろうか。学ぶことの偉大さ、素晴らしさをⒶさんはぼくたちに教えてくれているのかもしれない。

そんなAさんが「いいあす京都」にしばらく来ることができない期間があった。腫瘍摘出手術のための入院期間だ。最初彼女は手術を拒んでいた。自分が入院してしまったら唯一の家族の猫が途方に暮れるからだ。彼女は十数年一緒に暮らしてきた家族のことが心配で入院できないという。「猫のことより自分の体の方が大事だろう」思うのだが、本人はいたって真顔で猫のことを心配している。

何とかしてあげたいと思った。猫を何とかしたいのはやまやまだが、自主夜間学校がそこまでしなければならないものかと代表として判断に困っていた。ぼくたちは学びの伴走者だ。猫の飼育係ではない。しかし、何とかしたい。相反する二つの考えの間でぼくの心はしばらく揺れ動いた。

そんなある日、スタッフの一人が「私が預かります。猫好きやし。」と申し出てくれたのだ。さらに「学校に迷惑はかけません。あくまでも私個人が預かるのです。」と付け加えた。なんとありがたいことだろう。ぼくにはできないことだ。心の中で手を合わせた。Aさんは安心して入院してくれた。人間って何なんだろう。猫のことより自分の手術の方が何倍も心配ではないのか。ぼくには本当のところを計り知ることはできない。しかし、思うに、この時のAさんの最も重大な“困り”は猫の行方だったのかもしれない。本質は猫ではない。本質ではないかもしれないが、猫を預かることでAさんは安心して入院し、手術を受けて、病を克服しようとしてくれた。一人のスタッフがAさんに生きる力を与え、学び直し再開の道を開いたのだ。猫を預かる自主夜間学校があってもいいと思う。むしろそんな自主夜間学校でありたい。

10時間にも及ぶ大手術を無事終えたAさんは、手術後たった一週間で退院をした。退院の次の朝、ぼくの携帯にAさんからの着信歴が残っていた。早朝から何度も何度も電話をかけてくれていたのだ。急いで電話すると、要件は「無事退院した」という報告と、「3日後の学習会から参加してもいいか」という問い合わせだ。ぼくは術後の体のことを心配しながらも大きな声で「いいに決まってる」と答えた。それ以降、彼女の午後4時登校が続いている。


17才で洛友中学校を卒業して 洛南高校定時制に行きました。
高校2年までは数学がなく 3年生に上がるとき因数分解の
問題が出たとき 何をどうけいさんしていいのか何度やっても
分からず 自然と学校をやめることになりましたが
勉強のことが あきらめきれずにいました。
高校の先生が 「いいあす京都」のパンフレットをくださり
早速 「いいあす京都」に電話をしたら 高校の因数分解とか
英語を教えてもらえるというので お世話になることにしました。

人生は死ぬまで勉強だとおもうので また一から頑張って
今度こそ失敗しないように 生涯 勉強を頑張りたいです。
やっと希望が叶って嬉しいです。
椎葉和子

右は開校を祝う会のときに舞台のスクリーンに映し出したAさんの作文だ。学びに対するAさんの並々ならない思いが伝わってくる。

この作文を読むたびにぼくはとんでもないことを始めてしまったなと思う。後悔の念ではない。自主夜間学校はただの学校ではない。生徒さんがそれぞれの人生を背負ってやってくるのだ。苦しいことも、悲しいことも、もちろん、楽しいことも、うれしいこともすべてを背負ってやってくるのだ。“学ぶこと”は自分の“あるべき姿”の具現化なのだ。

この頃、ぼくはよくこんなことを言う。「生きていてよかった　生まれてきてよかった」と。大袈裟に聞こえるかもしれないが「いいあす京都」を開校して本当によかったと思う。これまで「いいあす京都」の感覚が何かに似ているとずっと思っていたが何なのかわからずにいた。しかし、今このレポートを書いてはっきりと分かった。若いころに味わった教組の仲間と共にした有意義な時間に似ているのだ。生徒たちのことを思い、自分がよく生きるために仲間と補い合い扶け合って切磋琢磨したあの感覚だ。大切なものを“古き良きもの”にしてしまうのではなく「いいあす京都」の実感として感じ続けたいと思っている。

山口県の民衆は負けない

山口県退職教職員協議会

1. はじめに

県内各地で人権・平和のために闘っておられる市民の方々と連帯して一緒に汗をかいて粘り強く闘っています。山口県退職教職員協議会の会員はそれぞれの地域で活動に参加しています。

2. 教科書問題の取り組み

2022年の秋、育鵬社の歴史教科書を採択している岩国市と下関市に全国からの支援を含めて5000筆あまりの署名を持って申し入れをしました。県本部と岩国支部、下関支部の会員で教育委員会の人々に歴史修正主義の教科書を使わないよう訴えました。

3. 愛宕山見守りの集い

岩国基地の沖合移設に使う土砂搬出のために削られてできた愛宕山の広大な平地に米軍住宅を作らせないと沖縄の辺野古の座り込みに学んで 2010 年から愛宕神社前の広場で座り込みを毎月３回してリレートークをしています。山口県退職教職員協議会の会員を入れて30人ほどが集まります。敷地の一部に米軍住宅が出来ましたが、空母艦載機が移転し嘉手納基地や三沢基地、アメリカ本国からも飛来し、付属の巨大な港にアメリカ軍艦たびたび入港している状況に反対の声を上げ続けています。

4. 朝鮮学校の補助金復活を求める県庁前座り込み

山口県は朝鮮学校の生徒一人に年５万円の補助金を出していました。安倍政権になり突然カットされました。２０１３年から毎月一回県庁前の広場で補助金復活を求めてスタンディングをしています。山口県退職教職員協議会の会員を含めて在日朝鮮人と日本人で30人くらいの人々で頑張っています。

5. 安保法制の廃止を求めるスタンディング

２０１５年から毎月19日に山口市民会館前の広場で安保法制の廃止を求めてスタンディング、リレートークをしています。

6. 上関原発建設反対の取り組み

原発建設、中間貯蔵施設の建設に反対する取り組みをしています。

7. イージスアショア反対の取り組み

会員による白髪騎兵隊が構成詩と歌で平和集会を盛り上げました。

8. 沖縄の闘いに連帯する取り組み

沖縄平和行進に参加しました。「辺野古に土砂を送らない・やまぐちの声」と連帯して遺骨が含まれる南部土砂を埋め立てに使わないよう声を上げています。

9. 天皇制の強化に反対する取り組み

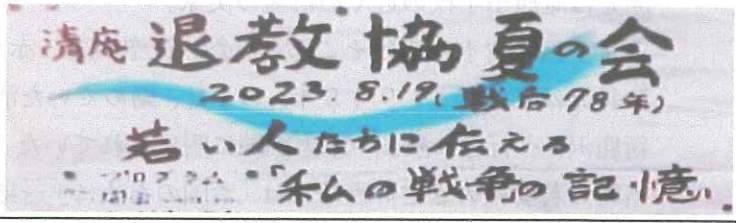
山口県知事の護国神社への公務参拝に反対して裁判をしています。前会長が意見陳述をしました。

（鳥家治彦）

２０２３．１０．１３日退協組織活動交流集会レポート　　静岡県退教協清庵地区　山田勝洋

清庵退教協夏の会　若い人にどう「戦争の記憶」を伝えるか

8月19日、36度の酷暑にもめげず、20人が「夏・平和の会」に集まりました。



①まず、DVD『体験者が語る清水空襲』（静岡平和資料センター制作・20分）を見ました。

▸1945年に入ると旧清水市は米軍による激しい空襲にさらされるようになりました。4月4日、7月7日には B29による焼夷弾爆撃、7月31日には清水港沖からの艦砲射撃によって、市街地は焼きつくされ、死者は351人、負傷者403人、焼け出されは4万人に上りました。　このビデオは、戦火を免れた先輩たちが描いた体験画や体験談の記録です。命からがら生き延びた先輩たちの話を聞き、私たちは、今更ながら戦争の残酷さを身近に感じました。

会場の壁に張り出された清水空襲体験画（静岡平和資料センター所蔵）

左４月４日、右７月７日空襲　酒井千里 画

②次に、会員一人一人が自分自身の戦争「体験」をたどり、話しました。

▸ 私たちの多くは戦時中、幼児か、戦後に生まれた世代ですから、戦場での経験はもちろんなく、空襲も、疎開を「体験」してもほとんど覚えていません。戦後に生まれた人は、戦争は「知らない」といって、距離を置いて来ました。「私の戦争」と言われても、語ることがありません。

事前に、こんな会話がありました。「戦争中、あなたはどこにいたの？市内にいたなら家は焼かれていたよ」「疎開していたなら。どこに？」「いや、これまで全然親から聞いたこともない」等々。そこで、両親や祖父母、兄弟に戦争中のこと、戦後のこと、を聞きました。今まで、関心も持たず、来たことを悔いながら、祖父母両親の苦労を知ることになりました。 ▸そして当日、みんなの話の中に、次々と新たな事実が出てきて驚きの連続でした。

例えば、「うちの父親は戦争中満州鉄道に勤めていた」「私は命からがら満州から帰国した」と言う話。「なぜそんなところに？」しかも、1 人ではなく、3 人、4 人と満州の話が続いたのです。驚きました。こうして、私たちは、自分の「戦争体験」をつかむきっかけを見つけました。聞いていた人たちにも「戦争をより身近に感じられた」と好評でした。▸「戦後 80 年」に向けての課題が少し見えてきたような感じがします。以下に当日、みんなが話した体験談や感想をかいつまんで紹介します。

―それぞれの体験談― 1. 清水空襲編～清水にもこんなにひどい空襲があった！

池上：▶１９４５年（昭和２０年）４月４日、国民学校入学の直前夜、住んでいた港町の家の裏に爆弾が落ちた。家は丸焼け。裏の家の４人が死んだ。市内全部では９２人ほどの死者が出たという。私たちは港橋を渡って本町の方へ逃げた。すごい地響きがして、恐ろしかった。即日疎開した。疎開先は庵原小学校の近くの母親の実家。

７月７日の清水空襲はそこから見た。夜空が真っ赤だった。そこで８月まですごし港町へ戻った。

▶長兄はこの年（１９４５年）の１月、勤めていた清水小学校を退職して陸軍士官学校（浅間山麓新鹿沢）へ行き、激しい軍事訓練に明け暮れていた。敗戦後８月末に清水に復員した。兄のように当時の若者はいざという時には「お国のために」一身を投げうって駆けつけるという考えだったようだが、私は、兄の心境はわからなかった。戦後の今、また、「国が第一」の教育が復活してきているので、大変憂慮している。

山田か：私は、母から「戦時中、庵原の広瀬に農家の納屋を借りて疎開していた」とは聞いていたが、それ以上は知らない。６つ上の姉は（国民）学校に行くために、７月６日、母と共に江尻の家に戻っていて空襲に出くわした。私は２歳の赤ん坊。何も覚えてはいない。今日は疎開のこと、空襲のことを詳しく聞こうと姉（浅井）に来てもらった。

浅井：７月６日、私は、「明日は江尻小学校へ行こう」と思って、疎開先の庵原から鍛冶町の自分の家に戻り泊まりました。それが、なんと、夜中に空襲。母と二人、近くの小芝神社の森に逃げ込みました。清水駅の周辺は火の海でした。この時のことを母が書き残してくれてあったので、自分でもよく思い出すことができます。逃げる途中で家の人と、はぐれて泣いている２歳ぐらいの女の子も一緒に連れて逃げました。小芝神社の裏の幼稚園が燃え出したので母とバケツで水をかけ消し止めました。朝になって女の子は文房具屋（兼高）の子とわかって届けました。そのあと母と庵原・広瀬まで歩いて帰りました。辺りは一面焼け野原で馬の死骸もありました。遠かったです。怖かったです。

杉田：自分は戦後生まれなので、今まで清水の空襲のことなど親に聞いたこともなかった。何も知らなかった。今回はじめて母親に話を聞いた。「家は今と同じ、江尻鋳物師町にあった。７．７の清水大空襲の日、父は満州に兵隊として行っていていなかった。祖父母は巴川にへばりついて上流に向かって逃げ延びた。２中が燃えていた。今のハートピア（旧清水警察署）の所には500k爆弾が落ちた。家は焼けてしまい、しばらくして小さなバラックの家をたてた」と話してくれた。

港橋下に避難した人々　鈴木玲之　画

2. 満州編～当時、多くの人たちが「満州」に行っていた！？

黒田ひ：当時４歳の私には記憶はなく母から聞いた話です。

私は紙一重で中国残留孤児になるところでした。私は満州の大同というシルクロードの入口で昭和１６年に生まれました。父は満州で料理屋を始め、軍部の人の出入りで大繁盛。私が現

地の中国人の子守の女の子に抱かれた写真もありました。裕福な生活をしていたんだなと思いました。今思えば心が痛みます。戦争に負け、満州にソ連兵が押し寄せました。母は「ロスケに時計貴金属をみなとられとても怖かった」と言っていました。父は兵隊に召集され、私と母、兄、祖母の４人で日本に引き揚げて来ました。女たちはみな坊主頭になって。新京の駅はごった返していて、私は迷子になってしまいました。母たちは死に物狂いで私を探し歩き見つけてくれました。兄は栄養失調で途中で亡くなりました。父は私たちとは別に帰国しましたが、「俺は一度死んだ人間だ」と言って、戦争のことは一切口にしませんでした。父が生きている内に私の方から戦場のことを聞いておけばよかった。母にも。悔やまれます。

青木：私の父も満鉄で働いていました。あまり父親から話を聞いてこなかったので今回調べたのですがよくわからない。父はおじさん（兄）が満州にいたので行ったのではないか。鞍山製鉄の官舎に住んでいた。生きている時にもっとよく聞いておけばよった。

▶最近は、授業で戦争の話をしても生徒に通じない。何も知らないので授業が成り立たない。アメリカと戦ったこと、空襲のこと、スイトンも知らない。だから授業では興味・イメージを沸かすように実物を見せている。生徒が持ってきてくれた「千人針」と「弾除け（龍爪神社）のお守り」、「出征時の日の丸」、「国防婦人会のたすき」（右上写真）等を見せて教えている。

戦争のことを全然知らない生徒達に実物を教材にして教える青木さん

久保：母が「一番恐ろしかったのは」と言って次のような話をしてくれた。―母は昭和 15 年東京の小学校で教鞭をとっていた。当時は産休もなく、大きなお腹を抱えて教壇に立っていた。ある日、突然 2 人の軍人が来て母は連行された。ナゼかと言うと、母は「満鉄」に勤めて豪華な生活していた姉夫婦に、「日本の軍艦が沈没したよ。早く内地に帰ってきた方がいいよ」という手紙を出していたそうです。それが検閲され、見つかったようだ。教員であった父は、母に始末書を書かせ、辞職させた。叔母は、戦後満州から二人の子供を連れ帰ってきた。叔母の夫は船中で病死した。戦後の生活は困窮を極めたという。

今また、戦争の足音が聞こえるようになった。私の故郷、奄美・徳之島にはオスプレイが飛来し、島の海には日米の軍艦が集結して合同訓練をしている。反対運動をしているのは数人だけだ。

杉山：私も、敗戦の時、満州にいて 6 才だった。父は「満鉄」に勤めていたので、裕福な生活をしていた。船で日本に帰るときに死んだ人を海に流す「水葬」を見た。「お魚に食べられちゃうの」と母に聞いた。帰国して戦争の現実を見た。『火垂るの墓』のようだった。「日常の中の戦火」を知った。私たちは、「満州からの人には暖かな静岡県がいい」ということで清水の平川地に住んだ。当時は安部郡有度村だった。学校に行くと子どもは藁草履に、はだしだった。私は革靴だったのでいじめられた。私は「どうして中国にいたの？」と不思議に思った。

3．全体を通しての感想・意見交換

A）夏休みは「広島・長崎原爆、終戦」の勉強をする季節だ。今日は、身近にこんなに戦争があったんだということが印象に残った。生徒も私も知らない。平和について、問いかけていきたいと強く思った。

B）自分は戦後、清水の山奥で生まれ育ったので清水空襲をまったく知らない。宿題にも出ないし、先生も

教えなかった。両親も90才前後まで生きていたが話を聞かなかった。聞けばよかった。
私自身も、学校では、戦争についてあまり教えたことはない。合唱祭で歌う歌に関連して「はだしのゲン」を見せたことはあるが。学校では教員の間に「戦争・平和」を教えることをタブー視する空気があった。自分も「かかわらないほうがいい」というような気持だった。もちろん教師の中にはそういう空気にめげずに語っていた先生がいたが、私は、距離を置いていた。今日は区切りをつけて参加した。

C）戦争は全く知らない。両親も戦争を体験していない。しかし、ウクライナのように戦争は起こりうる。だから、考えなくてはと思った。▸今日の話を聞いて、私が今、戦争について知っていることは、小学校や中学校の先生が、試行錯誤しながら教えてくれたことなんだと感じた。日本とアメリカが戦争したこと、日本が他国に侵攻したこと、千人針のこと等を教えていることを聞いたが、それを教えるということは本当に大変なことなんだと知ることができた。（学生）

D）以前、父から魚町に爆弾が落ちた話を聞いたことがあった。今は、テレビで明るい話題はあるが、戦争を問題にするような辛口の番組はない。国民も話題にしない。今できることを日ごろ避けていて、あとでことが起きてから非難するのではだめではないか。戦争は国民にも責任がある。
▸戦争を語ることはタブーなのかな？過去の過ちを知って、考え、正しい道に進むことはとても大切だと思うけど。

E)私の住んでいる三保は田舎で戦争とは縁遠いと思っていたが、戦時中、三保半島全体が軍事基地化（特攻艇震洋・掩体壕）していた。三保でも今、戦争の痕跡が消えようとしている。なくならないうちに急いで記録を作って、三保の戦時中の空白の歴史を埋めたい。

F)こんな大きな空襲があったんだ。初めて知ってびっくりした。戦後のベビーブームに生まれて何も知らなかった。父親は海軍で満州に行っていたという。もっと聞いておけばよかったと思う。
現職で働いていたときは組合で戦争の話はしたが、退職して家に入ると、「戦争や平和のことはもういいや。反対してもしょうがない」となってしまった。考え直さなくてはと思った。

G）今回、はじめて自分自身のことが分かって勉強になった。組合（静教組）としても勉強しなくてはならないのではないか。今日の勉強会で、「米軍作戦指令書」（5ページ『静岡・清水空襲の記録』静岡平和資料センター編）を見たが、すごい。ここまでアメリカは調査・研究して、清水空襲をやっていたのか、と驚い。今はウクライナ戦争をやっていて、日本はどんどん軍拡をしている。
ロシアは非人道的なことをしている。もしこのままロシアが「勝てば官軍」みたいに侵略が許されてしまうことがあってはならない。しかし、平和を大切にするには何をすればよいのかわからない。

＊追加・・後日「退教協だより」を読んで、先輩会員の青木彰さんから手紙が届きました。
「夏の会の報告」ありがとうございました。色々な戦争体験を読んで、小学校低学年時代（富士市）のことが思い起こされました。大本営発表のラジオの放送が聞こえていたこと。空襲警報がよく鳴り響いたこと。庭の防空壕に仕方なく入ったり、B29 の編隊が富士山を目指してよく飛んできました。グラマンの急降下爆撃が数回ありました。ウクライナではもっとひどいことが起きていますが、命を奪い合う戦争が早く終わることを心から願っています。・・・

＜おわりに＞私たち自身が過去の「戦争」であれ、現在のものであれ、傍観者であっては若い人たちに「戦争」を語ることはできない。どうしたら自分ごととして「戦争」をとらえ、語ることができるのかを試みてみた。多くのことを学んでそれぞれ、今後の課題をつかんだと思う。実りある夏の会になった。

（２０２３．９．２１　k.Y）

機密
XXI 爆撃機集団司令部
陸軍軍事郵便局234

作戦任務報告書

野戦命令96号　　作戦任務番号251, 252, 253、254, 255号
目標：千葉・明石・清水・甲府の市街地＆下津丸善石油

1945年7月6日

(以下、清水市街地の報告を要約して紹介。81ページ分をまとめたもの)

作戦計画

目標の重要性

静岡市の8マイル北東の清水市は、東海道本線沿線の駿河湾に面した本州中央部の都市である。本州中央部の重要な工業都市であり、この地域唯一の深海港を擁する。戦前は緑茶の輸出、シンガポールからのボーキサイト等の輸入が盛んだった。清水と蒲原のアルミニウム工場はこの種の工場としては日本最大。現在鉱石の運搬は鉄道輸送に頼っているようだ。釣り針のような形の海岸線に沿い、アルミニウム工場の他、港湾施設、小型船の造船所、製油所、貯木場、倉庫、操車場等が建ち、少し離れた場所に大規模な軽金属工場と電気機器工場がある。

実行計画

第313航空団の2群団はM47焼夷爆弾、他の2群団はM17集束焼夷弾を搭載し2100～2300mで投弾。目標上空914mで解束、最大効果を得るためM17は11m、M47は15mの投下間隔に設定。

- 目標地域は、工業域と住宅域が入り組んでおり、木造と鉄骨の建造物が混在している。そのため、貫通性と燃焼性を考慮すれば、この2種の爆弾の組み合せが最適と判断された。
- 1エーカーに8トンの割で目標に焼夷弾を投下すればこの地域の壊滅には充分である。
- 投下間隔と信管は、最大効果が得られるように設定された。
- 攻撃ルートは、基地→硫黄島→伊豆大島南端→伊東市の東端→目標→硫黄島→基地

空対空・地対空情報

高度2100m～2300mからの夜間攻撃に対する防衛体制は手薄であり、清水―静岡地区には20門の重高射砲、25門の中高射砲、サーチライト1台（2～6と予想）があるのみである。

この攻撃ルートは、沼津と蒲原からの対空砲火を避けるように設定された。

任務の実行（付箋A～D）

第313航空団の133機は圧縮度97分(0：33～2：10)で934トン(1030米トン)の焼夷弾を投下。

- 7機が目視爆撃、25機が目視とレーダー、108機がレーダー爆撃。
- 高度2130m～2490mから目標を攻撃。
- 目標上空は9/10から10/10の煙と熱に覆われる状況を生み、後半の爆撃機は、爆撃高度の上まで上昇する煙柱に遭遇した。高熱のため、しばしば爆撃は困難に陥った。
- 12機の敵機に遭遇。4回の攻撃が行われた。敵機から3個の風船様物体が発射された。
- 目標上空で脆弱且つ不正確な重高射砲および中高射砲の攻撃を受けた。

損害評価

今回市街地に与えた損害は同面積の50%で、過去の損害を含めると52%を破壊した。
工場施設の中で、識別番号が付された目標の損害は以下のとおり。

1178 清水埠頭	40%破壊	XXI6000 清水駅および積荷倉庫	30%破壊
XXI富士エンジニアリング清水工場	40%破壊	XXI6080 豊年製油	55%破壊
2,150 東亜燃料	確認できず	XXI6076 東海汽船	確認できず

識別番号なしの目標の損害は以下のとおり（一部省略）

軽工業の2工場	100%破壊	東洋製缶	100%破壊

5

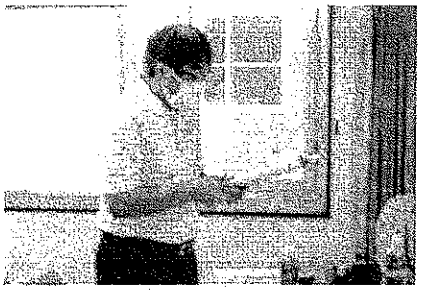
第 29 回日退教組織活動交流集会レポート

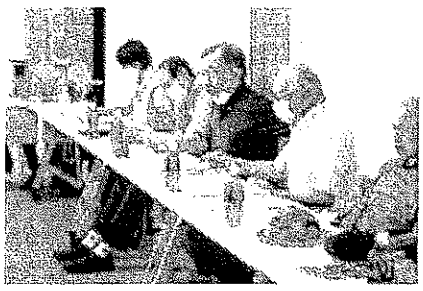
組織強化に向けた北退教の活動について

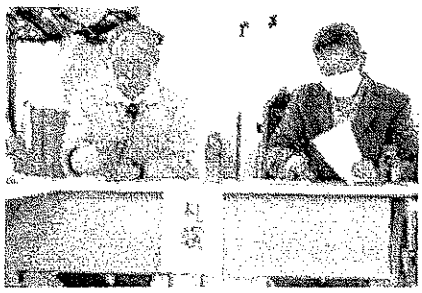
1ブロック活動交流会
（9月15日）

加入拡大に向けて 現職とつながる活動を

コロナ感染5類移行に伴い、今年度は残念ながら開催を見送った4ブロを除く4つのブロックで開催される運びとなりました。活動交流会の報告を順次紹介します。







現職とのつながりで加入拡大を！

■昨年は開催中止となった。集まって、話をする機会は必要。現退の交流を活発化させることが必要。日常的に現退一致の運動をすすめるためにも現職の支部執行部・北教組本部執行部の出席をぜひ求めたい。

各退教の状況

■異動者の状況をどう把握するか。

■各支会ごとに大会を開いていた時期もあったが、一部、「支会代表者」も選出できない状況がある。現職と協力しながらとりくみをすすめたい。

■現退でとりくんできた「アイヌの授業」の資料集が完成。厳しい現場状況のもとでも実践の積み上げをはかりたい。

■定年延長で、退教にとっては大きな影響がある。

■泊・寿都・神恵内の問題以外にも、脱炭素社会実現に名を借りた、政府・大企業が一体となった大規模風力発電建設事業などの問題点を学習し、反対するとりくみが必要。

加入のとりくみ

■退職後の組織とのかかわりを忌避する傾向を、どう克服するか。

■現職とのつながり、話し合いをすすめ、「退職したら退教へ」という意識をしてもらうとりくみが必要。

■再任用期間が終了後の加入促進は困難。退職即加入、再任用期間中の退教会費免除となったことから、再任用組合員と退教のダブル加入をすすめる。

活動交流会のあり方

■各地域がかかえる課題など、話し合いを掘り下げるためにも、活動交流会の話し合いのテーマ等は、各ブロックごとの協議で決め、報告書の形式など、自由にすべきである。

■話し合いの内容を掘り下げるためにも、意見交流の時間の確保がさらに必要である。

他のブロックの活動交流会については、次号189号で紹介します。

「北教・北退教版」１０月１３日号（校正中の誌面より）

北海道退職教職員連絡協議会
筒井比呂志

組織強化に向けた北退教の活動について

1　組織（北退教）の現状

現在年間６０～８０名の新加入の一方、死亡・退会合わせてほぼ４００名の減の状況が続いています。会員減については、北教組組合員減、教職員・組合員の意識の変化、現場の多忙化、管理強化、組織攻撃等による組織離れがあります。しかし、退職し職場もなくなり高齢で病気、介護のことなど考えると不安だぜひ北退教にという未組合員もいます。

いま、加入を呼びかける会員と退職予定者との年齢が開きすぎ友人・知人も少なく声掛けも十分な効果が上がらない状況にあります。そこでここ数年、退職予定者と一緒の現職の皆さんにこれまで以上に北退教加入を働きかけていただくことにしました。そのうえで退教から働きかける，この現と退の一体的取り組みをさらに強めました。

その結果、「先に分会長から声をかけられなかったら加入は考えなかったかも」「加入して現職組合員を応援する気になれた。」「退職した先輩組合員からの勧誘があったから入った。加入案内や資料を渡されただけでは加入しなかったと思う。」等の声も寄せられています。なかなか厳しい状況にはありますが、加入が進んだとの報告も寄せられています。

2023年２月11日　（1957年8月30日第三種郵便物認可　毎月3回(1・11・21)発行）　北　教　"平和を守り真実をつらぬく民主教育を"　第2289号（三）

ともに豊かな人生を!! 北退教

新会員のみなさんの「声」

少人数学級の早期実現を！

（小樽）

●昨年退職し、再任用ハーフとして、かねてから念願の特別支援学級に関わらせてもらっていますが、新鮮でやりがいのある日々です。

現在の学校教育では不十分な「すべての子のニーズの多様性に着目し、対応する教育」という真の意味でのインクルーシブ教育に少しでも近づけるよう微力ながら頑張っていきたいと思います。また、そのためにも、少人数学級の早期実現を強く願うばかりです。

（「北教・北退教版」181号　2022年1月より）

花咲かせたい教育談義

（日高）

今年3月に退職し、4月から再任用として新しい職場に勤務しています。コロナ禍の影響で先生方との交流の場面が減ったことを残念に思います。再び以前のように、仲間と共にお酒を飲みながら教育談義に花咲かせたいものです。そして、36年間の組合員生活で学んだ自主編成運動、学級づくり、各種闘争を若い組合員のみなさんに伝えることができればと考えています。孫も生まれ、「リアル爺さん」となりましたが、これからも北退教と北教組の両方の活動に頑張っていきます。

（「北教・北退教版」181号　2022年1月より）

これからも仲間とともに

（渡島）

実感のないまま訪れた定年退職の日。どこか一区切りつけたい気持ちと、再任用教職員としてリスタートするわくわく感の同居。あれから半年。今は、28年ぶりの小2の担任として、3人のめんこい子どもとともに、楽しい毎日を送っています。

組合員として、仲間の皆さんとともに歩み続けることができたことへの感謝を胸に、もう少し、子ども達と学び合う日々を積み重ねていきます。

（「北教・北退教版」184号　2022年10月より）

笑い、歌い、歓声の学校を！

（上川）

3月で退職し、再任用ハーフタイムで勤務しています。初任者指導という立場なので、授業を含め、生徒との関わりが少ないことが寂しいなと感じています。そんな中でも朝の挨拶と廊下での会話だけですが、できる限り関わりを持つようにしています。

未だマスク生活で、なかなか顔の見えない生活が続きますが、大きく口を開けて笑い、歌い、歓声が聞こえる本来の学校生活が戻ってくることを願っています。

北教組と北退教、二足のわらじで、私ももう少し頑張ります。

（「北教・北退教版」184号　2022年10月より）

長崎の地で感じたこと

（札幌）

●昨年の3月で退職し、気持ちをリセットすべく思い切って九州に旅行に出かけました。

平和公園、浦上天主堂や原爆資料館は訪れたい場所でした。原爆の悲惨さは知ってはいましたが、でも目の前には70年は草木も生えないと言われていた所に街があり、普通の生活の営みがありました。

原爆を乗り越えてきた長崎の人たちの逞しさを肌で感じた想いでした。

●「教え子を再び戦場に送るな」が私の教育の一つの柱だったことを再確認した旅でした。

（「北教・北退教版」182号　2022年4月より）

現・退二足のわらじで頑張る!!

（釧路）

●昨年3月に退職し、現在は再任用で養護教員として引き続き勤務しています。子どもたちや先生方との新たな出会いから元気をもらっています。

それと同時に「GIGAスクール構想」で1人1台のタブレット使用が一気に下ろされ、学校が大きく様変わりし多忙化していることに不安や戸惑いも感じています。"誰のため・何のため"なのかをみなさんとともに考えていきたいと思います。

北教組と北退教の二足のわらじをはいて頑張ります！

（「北教・北退教版」181号　2022年1月より）

2 加入拡大の具体的とりくみ（総会議案から）

① 現退一致で交流会や運動に取り組む等日常活動を通じて組織拡大を図ります。

② 北教組（支部・支会）と協力し退職・再任用予定者の状況把握につとめます。

③ 退職予定者名簿作成、北退教加入パンフ、「北教・『北退教加入特集』」の発行、各退教独自の加入パンフ配布、退職激励会、教職員共済説明会等で呼びかけます。さらに現職からの職場での加入の呼びかけ、友人知人からの私信・電話等での加入の呼びかけに努めます。

④ 退職予定者、既退職者をはじめすべての未加入者に積極的に働き掛け、通年的に幅広く加入促進を図ります。とくに**12月から5月迄を加入強化期間**とし総力を挙げて取り組みます。

⑤ 再任用教職員の組織化及び課題解決については、北教組本部、各支部と連携し北退教・北教組の二重加入の取り組みを強化します。二重加入再任用者の北退教会費は免除します。

⑥ 会員死亡時等の配偶者加入については規約第４条に基づき配偶者の状況等に十分配慮の上、取り組みます。

⑦ 組織拡大対策について可能な限り財政上の配慮を検討します。

⑧ 退会希望者への粘り強い説得、転居会員の転居先退教へ連絡等退会を防ぐとくみを積極的に行います。

⑨ 組織拡大を柱にブロック活動交流会を９月から１０月にかけて開催します。

内容は、新会員加入拡大・組織強化、当面の具体的な取り組みを出し合い交流と課題解決に努めます。また、今後のブロック活動交流会のあり方についてその内容、役割、各ブロック独自の問題点等について話し合う事とします。

そのため北退教事務局と各ブロック当番退教を中心にうち合わせを行います。交流内容は「北教」・北退教版、事務局通信等で還流します。

当番退教は次の通りです。

１ブロ（小樽）、２ブロ（旭川）、３ブロ（函館　）、４ブロ（胆振）５ブロ（十勝　）

⑩ 女性会員及び女性部委員会の活性化

イ ジェンダー平等の実現をめざす取り組みを強化し、会員拡大、女性会員の活動の充実に努めます。各種活動、集会、意思決定機関、北退教・各退教役員への女性参画を高めます。

女性部委員会及び各退教は、女性会員の活動を一層強化します

ロ 女性会員にかかわる諸問題を解決するため全道女性部委員会を開催し活動の交流と課題の解決に努めます。

ハ 「女性部委員会だより～美しき生涯を」を随時発行し、交流・学習と組織拡大・強化に努めます。

ニ 北教組組合員・保護者・地域住民との連携交流を深めるため、他団体の活動にも積極的に参加します。

⑩ コロナ感染終息後、組織強化、当面の取り組み強化のため全道的会議の開催を検討します。

（二）第2289号　（1957年8月30日第三種郵便物認可　毎月3回（1・11・21）発行）　北教　"教え子を再び戦場に送るな"　2023年2月11日

特集　ぜひ北退教へ!!

みんなで高齢者の生活を守りましょう!!

ふんとして次世代へ平和を!!

現職の皆さん!! ひと声加入のよびかけをお願いします!!

■日々学校で顔をあわせておられる皆さんからの「ひと声」が大きな力となります!!■

「加入して現職を応援する気になれた」

「先に分会長から声をかけられなかったら加入は考えなかったかも…」

（昨年の「加入のとりくみ報告」より）

■皆さん、年度末をひかえ本当におつかれ様です。さて、今ますますあがる物価、防衛費、さがる一方の年金等社会保障。北退教はこれをはねかえし、親睦・交流を深め、高齢者社会保障、教育、平和等のとりくみを強めています。そのため何としても会員拡大が急務です。■どうぞ皆さん、是非ご加入いただきますようこころからお願い致します。なお、再任用の方は北教組と北退教の両方に加入できます。どうぞご加入をお願い致します。

北退教はコロナ禍のきびしい中ではありますが、昨年12月から今年5月迄を加入強化期間として全力をあげ加入をお願いしております。どうぞよろしくお願い致します。

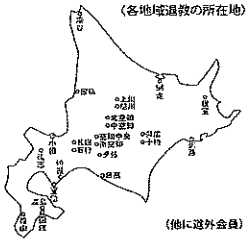
北退教って？ Q&A

1. 北退教とは？

北退教（北海道退職教職員連絡協議会）は、24の地域退教の連絡組織で会員は約4千人、全国一の会員数です。日退教（日本退職教職員協議会）に加入し全国6万人の仲間と要求実現のため協力しています。

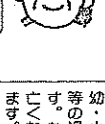
北退教は今から49年前の1974年、退職教職員の福利厚生と経済的、社会的、政治的地位をたかめるためにつくられました。

（各地域退教の所在地）



2. どんな活動をしてるの？

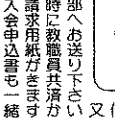
退職者が安心して暮らせるよう年金や医療、介護、税金、そして若い世代のためにも教育・平和・脱原発などに積極的にとりくんでいます。



懇親会をはじめ、誕生カードのプレゼント、旅行、バークゴルフ等のレクリエーション、講演会・学習会、サークル活動、相談活動等で絆を深めています。

教職員共済や互助会の利用、会員が亡くなられた時のご相談にも応じるなど、いざという時にもたよりになる組織です。

北退教は教職員共済と互助会の総会等には総代として代表が参加し、意見反映をしています。



3. だれでも入れるの？

幼・小・中・高・特別支援学校等の退職者ならだれでも入れます。もちろん管理職も。会員が亡くなられた時は配偶者も入れます。会費は年1300円。他に各地域退教の退教費を集めています。

入会の手続きは？

いつでも入会できます。下の入会申込書に記入し、居住する退教、又は北教組各支部へお送り下さい。なお、退職時に教職員共済から退職見舞金請求用紙がきますので、北退教入会申込書も一緒に入れて送っていただいてもよろしいです。

切取線

北退教入会申込書

（　　）

退職教職員協議会

〈入会希望の地域退教名（上の地図参照）を記入してください。〉

ふりがな			20　年　月　日
入会者氏名	男・女		
生年月日	年　月　日		
住所	〒□□□-□□□□　電話（　　）　－		
退職学校名		退職年月日	20　年　月　日

3 各地域退教のとりくみ

広大な北海道の土地柄ゆえ、２４の地域退教が各地域課題にとりくみ、、現職支部と連帯した現退一致の活動に取り組んでいます。

地退教の具体的とりくみ

◎学習会・講演会の開催、教育、文化、福祉、環境保護、平和等の地域のボランテア活動

◎旅行、諸サークル活動や、パークゴルフなどレクリエーション、スポーツ等の親睦・交流と連帯

◎地区退職者連合等の各種行事への参加

◎情宣活動（地退教だより）等で組織の活性化

◎機関紙の手配り地域の拡大を図り、組織強化につなげる

◎地域の高齢・退職者団体連合及び「民主教育を進める住民会議」等への活動に積極的に参加し、要求実現に努めまる

◎各地の平和運動フォーラム等の運動への積極的参加

4 課題

人・地域とのかかわりを避ける傾向（孤立・個立）

定年延長

＜日高退教＞

２０２３年　３月８日

ぜひ北退教へ、仲間をふやそう！

５月まで北退教加入拡大強化月間です。*再度のお願いです*！！

～声かけが大切！！すぐ近くの仲間へ～

皆さんのとりくみもあって、日高では２０２２年度に１３名の新会員の加入がありました。しかし会員数は年々減少し続けています。（この５年くらいで３０名くらい減少し現在１６６名１０年位前には２５０名くらいの加入者数でしたが・・・。）

会員数の減少で活動や会の運営などにもいろいろな影響が出てきています。高齢者医療福祉の問題・税金や年金問題・反戦平和・教育政策の立て直しも重要課題です。そのためには組織の力を強め、拡げていくことが欠かせません。北退教はゆるやかな協議体・運動体です。

よびかけよう！仲間をふやそう！！老後を仲間との交流を深め、ともに暮らしを豊かにするため！！

自分のできる範囲で運動に参加できます。仲間と交流し連帯し、老後の生活を共に充実したものにするためにも、**過年度の未加入者への声かけも含め、ぜひ会員のみなさんから、加入の声かけをお願いします!!**

方　法　※　**電話や直接会って（これが一番いいです）、あるいは手紙・年賀状などで声かけする。**

日高に住まなくても、日高北退教に加入できますし、退職後お住まいの地区の北退教でも加入できます。加入の意志が確認できましたら、事務局（遠藤：０１４６－４７－３６２５）または、お近くの役員・地区の理事さんへ連絡して下さい。

＜十勝退教＞

学校現場で
ご活躍されました
皆さんへ

十退教への加入のお誘い

長年にわたり、教育現場でご活躍されました皆さん、大変お疲れ様でした。十退教（十勝退職教職員協議会）は、十勝管内の学校を退職された教職員で構成しています。1976年に「互いの交流」と「学校現場への支援」などを主な目的として結成されました。発足時は、わずか15名でしたが、それ以来、地道な活動を続け、現在165名で楽しく有意義な活動を行っています。

来春、退職を予定されている皆さん、ぜひ「十退教」に加入され、一緒に活動し学習や親睦交流を深めましょう。

加入手続き

- いつでも入会できます。別紙の「入会申込書」にご記入の上、送付願います。
- 十退教に加入されますと、自動的に北退教（北海道退職教職員連絡協議会）にも加入となります。
- 再任用の方も、北教組の組合員の方も、組合に加入されていない方も、再就職をしていても加入できます。また、お住まいが十勝管内の町村ではなく帯広市内や札幌でも加入できます。退職時の勤務校が帯広市内の方も加入できます。

会　費

- 年間2,300円（十退教分が1,000円、北退教分が1,300円）

目的と事業　（十退教の規約より）

- 目的は、退職教職員の福利厚生と経済的・社会的・政治的地位の向上を図ること。
- 事業としては、①会員相互の親睦と学習　②退職手当・年金・医療制度の改善並びに社会保障制度の確立　③女性の地位向上　④その他、この会の目的達成に関すること

活動の方針　（2022年度の総会議案より）

(1)健やかで充実した生活を確保するために、社会的諸制度を改革し、より充実した福祉社会を形成する運動を、関係団体と連携し進めます。

(2)反核・平和・軍縮と民主主義を守り、政治や教育の反動化を阻止するため、北教組十勝支部と「現退一致」で取り組みます。

(3)組織の拡大・強化、会員の親睦と融和を図るよう努めます。

組織の概要　（新型コロナウイルス感染症予防のため活動を縮小しています）

(1)総会・広報活動：総会は6月に開催、「十退教だより」は年4回ほど発行しています。

(2)厚生部の活動：①秋の親睦旅行・研修会（今年度は研修会のみ）
②春と秋の年2回の交流会（歌声のつどいなど）を計画

(3)女性部の活動：①健康と生きがいのための親睦交流（9月下旬）
②諸団体と交流し諸課題解決にあたる
③母と女性教職員の集いに参加
④女性部だよりの発行

愛知退職教職員連合会

事務局長　沖田　了紀

「組織拡大・強化と愛知退教連の目的」

１．組織改編

１９８４年の発足以来、三十年以上もの間、「愛知県退職教職員協議会（愛知退教協）」として、尾張・三河・名古屋の愛知県下の退職教職員が一致団結して取り組みを進めてきた。そんな中、１７年度４月、名古屋市において「県費負担教職員の給与負担等の道府県から指定都市への移譲」が行われたことにより現役組織が組織改編したことにあわせて、愛知退教協も組織改編を行った。

現役の組織構成と同様に、尾張・三河の退職教職員で構成する「愛知県退職教職員協議会（愛退教）」と名古屋の退職教職員で構成する「名古屋市退職教職員協議会（名退教）」がそれぞれ組織され、愛退教、名退教の連合会である「愛知退職教職員連合会（愛知退教連）」を組織した。これは、たとえ、権限移譲が行われても、愛知は一つとなって現退一致で取り組みを進めていくという現役・退職者組織の考えから生まれたものである。現在も愛退教、名退教それぞれが協力し合い、これまでの取り組みを継承しながら愛知退教連での活動を精力的な取り組みを展開することができている。

２．愛知退教連の課題

組織改編が行われたものの、愛知退教協からの課題は残されたままとなっている。結成から３９年を経過した愛知の退職者組織であるが、残念ながら現役教員の中に「愛知退教連」を知らない組合員もいる。本年度も加入期間である３月から４月にかけて、「入るとどんないいことがありますか？」と、退職組合員のいる分会委員長から事務局に電話がかかってくることもあった。そこで、事務局から退教連の目的や意義などについてさまざま話をしても、具体的なメリットのみが追求され、残念ながら組織率も年々減少しているところであり、組織率の減少に伴う財源減少も運営上厳しい状況を生み出している。このような状況になった背景として、退職組合員の中には、「もう退公連に入ってしまったので、退教連は…」と答える方も多く、退教連と退職公務員連盟との組織の違いを理解してもらえていないことや、公務員

弘済会との競合などによって、愛知退教連結成の大きな目的の一つが変化してしまったことが考えられる。

そのような背景の中、組織率の減少に歯止めをかけるべく、２００８年度より各地区の校長会の会合において、入会を呼びかける取り組みを始めた。大きな成果とまでは言えないものの、呼びかけを始める前と比較すると少しずつ入会数の増加傾向が見られるようになってきた。今後も、組織改編によって生まれた愛退教、名退教がそれぞれの地域にあわせた入会に向けた取り組みを粘り強く行うことにより、取り組みの成果が期待できると考えている。また、現役組合員への勧誘活動にも積極的に取り組みも始めており、本部主催の学習会や単組学習会などの機会を活用し、退職者組織の目的や意義などについて説明している。校長会への呼びかけと同様に、粘り強く退教連の目的や意義などの周知をはかることで、将来の入会数の増加につなげていきたいと考える。

愛知はこれまで諸先輩の信念と努力により、組合・校長会・教育委員会そしてＰＴＡのそれぞれの団体が手を携えて愛知の教育をよりよいものにしてきている。入会に際し、何らかのメリットを求めたくなるのも理解できるが、現退一致で「愛知の教育をよりよくしていく」という最大の目的をしっかりと理解していただき、伝えることが何よりも大切であると考える。

意義が伝わり、退教連の目的を理解していただくことで、組織の拡大・強化に直結すると考える。これまでの長きに渡る活動をふまえ、退教連の目的について考えを述べていきたい。

３．現退一致による運動の推進

退教協の目的を考える上で欠かせないことは「現退一致」による運動の推進である。組合活動の延長線にある「現退一致」の運動の大きな利点として、現役の組合の活動をさらに強固にすることができるということがある。

現役組織の愛教組連合は、今年４月に行われた第２０回統一地方選挙において、組織内議員である谷口知美愛知県議会議員、鵜飼春美名古屋市会議員、森智雄名古屋市会議員、３人全員のトップ当選を果たすことができた。

愛知退教連としても、３月に行った総会において、本年度の活動方針が提案・承認され、具体的な活動のすすめ方として、「組織推せん候補者の必勝を期して取り組むこと」が決定しており、４月の統一地方選挙における取り組みの強化を図った。

退職者会員の要求を実現させるとともに、生活と権利を守るためには、各級議会において代弁者が不可欠である。深刻な教育課題を克服し、ゆきとどいた教育を実現できるよう、今後も会員を継続していただかなければならない。今後も現役執行部が組織推せんした候補者の必勝にむけ、機関紙などで組織推せん候補者の周知を図るなどして、全力で取り組んでいきたい。

また、愛知退教連では現退一致による運動推進の一環として、現職である愛教組連合役員も日退教のさまざまな行事や活動などに積極的に参加する工夫をしていることは、特筆すべきことである。その一つの取り組みが、「沖縄と連帯する沖縄交流団」である。沖縄交流団に参加することで、市街地に当たり前のように存在する基地や、普通に頭上を飛行するヘリや戦闘機、さらには訓練場の外まで聞こえてくる銃声や爆発音など、報道や資料等では感じることのできない沖縄の現状を知ることができると考える。そして、テント村やゲート前で現地の仲間とともに連帯し、行動をともにすることは貴重な経験となり、こうした沖縄の現状を目の当たりにすることで、学習と交流の重要性を改めて確認することができる機会となると考える。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大の影響から、ここ数年、様々な活動が思うように行えない時期があったが、５類へと移行した今年度から、また改めて上記のような取り組みは継続すべきと考える。

４．メリットや生きがいを得られる活動の充実

ここまで述べてきたように「現退一致」の運動が、組織の拡大・強化を図る上で重要であることは言うまでもない。しかし、運動を構築する上でここ数年大きな課題となっていることがある。それは、入会していることによる実質的なメリットである。発足当初に教職員共済が継続できたことのように、退教連に入会するメリットを設けていく必要がある。もちろん、退職後も自らが教員であった誇りと使命感を持ち続け、社会に貢献することの重要性を認識し続けることは当然である。

【19年度の親睦旅行の様子】

愛知退教連が取り組んでいるものとしては、毎年恒例の海外への親睦旅行がある。１９年度は、ジャワ島への３泊４日の旅行を行った。親睦旅行には、リピーターの参加者も多く、毎年の旅行を楽しみにしている方もおり、疎遠になりがちな退職者

にとって旧交を温める機会となっている。本年度は４年ぶりに開催できることとなり、韓国への２泊３日の親睦旅行で会員相互の親睦をさらに深められる３日間にしていきたい。

今後も会員のニーズを把握しながら、会員がメリットを感じることができるような企画を考え、活動が前進するように検討を続けていきたい。

５．おわりに

以上のように、ここまで述べてきた退教連のすべての活動に目的と意義があることは言うまでもない。これらの活動を現在の組織強化、そしてさらなる組織拡大へ向けた足がかりとし、今後も退教連運動を前進させていきたい。

島根原発2号機運転差止仮処分裁判の取り組み　～自分の思いを行動に～

鳥取県退職教職員協議会西部地区幹事　後藤　譲

1.はじめに　後悔しないために、今できる行動を!

2023年3月10日島根原発2号機運転差止仮処分の申立てを広島高等裁判所松江支部に行いました。「島根原発1・2号機運転差止訴訟原告団」「島根原発3号機の運転をとめさせる訴訟の会」「島根県平和センター」「護憲フォーラム鳥取」をはじめとする多数の団体の支援を得ながら、来年8月といわれる島根原発2号機再稼働を何とかとストップさせたいと行動しています。日退教の皆さまには、この裁判闘争にご支援を頂きありがとうございます。

我が家から島根原発まで約40kmでUPZ(30㎞圏内)に入りませんが、福島事故をみれば明らかのように30kmでプルームは止まってくれません。過酷事故が起きれば風向きによっては避難しなくてはならず、そしていつ我が家に帰れるかわからない状態となります。

原子力規制委員会は「苛酷事故は起こらないとは言えない」といっています。そうであれば「日々原発事故のリスクを感じながら生活したくない」「この自然豊かな山陰の地を残したい」これは、住民として持つ当然の思いであり、当然の権利でもあります。こんな至極当たり前のことから、今回の島根原発2号機運転差止仮処分の申立人となりました。

私は1・2号機の差し止め訴訟(1999.4.8)の一審からの原告でした。当時私は鳥教組の専従役員をしていたこともあり、総評解体過程であった「西部地区平和センター」(現在の「護憲フォーラム西部」の前身)の事務局長でした。他の労組の方に原告となることを呼びかけていましたが、提訴当時は、心のどこかに「チェルノブイリのような事故は日本では起こらないだろう」と思っていました。しかし福島原発事故が起きました。原発は大丈夫、苛酷事故は起きないという「安全神話」は完全に崩れました。

福島事故から12年経過した今、「新たな安全神話」が生まれつつあるように感じます。原子力規制委員会・更田豊志(当時委員長)は「政府が新規制基準を『世界でも最も厳しい水準』などと説明することについては『違和感がある。』…『あの厳しい基準に合格しているのだからこの炉は安全です』という脈略で語り出すと、それはある種の新安全神話だ。」(2021年3月4日朝日新聞記事)と言っています。「新たな安全神話」は、政府や事業者によって意図的に国民に刷り込まれているのです。

だがそれだけでしょうか。私たちの中にも「危険なこと・不安なことは考えないようにしよう」という逃避思考・現実逃避があると思います。原発のリスクを自分ごととして考えられない。私が関わった住民投票条例制定の運動の中でも感じました。また、「福島の事故を経験しているのだから、厳しい基準で『安全』につくられているんじゃないの？」という人もいました。「原発をとめた裁判長」として講演活動をされている樋口英明元裁判長は脱原発運動の最も強力な敵をこの「先入観」と言われています。

原発が身近にあるということは、意識する・しないに関わらず、周辺住民に事故のリスクをもたらします。皆がこのリスクを直視すべきだと思います。この仮処分裁判闘争を通じて、多くの人々に原発の危険性や問題点を広げて行きたいと考えています。原発事故が起きた後、「あのとき行動を起こしていればよかった」と後悔しないためにも…。

2.仮処分申立てとは

島根原発1・2号機の運転差止訴訟は1999年4月8日から24年も続いています。一審松江地裁は敗訴、そして現在は広島高裁での控訴審が続いています。今回の仮処分裁判は、差し止め判決が出ると即時有効となり、来年の再稼働にストップがかかります。当然中国電力(以下「中電」)は異議申し立てを行うと思われますが、本訴と違い、この間は運転が止まることになります。

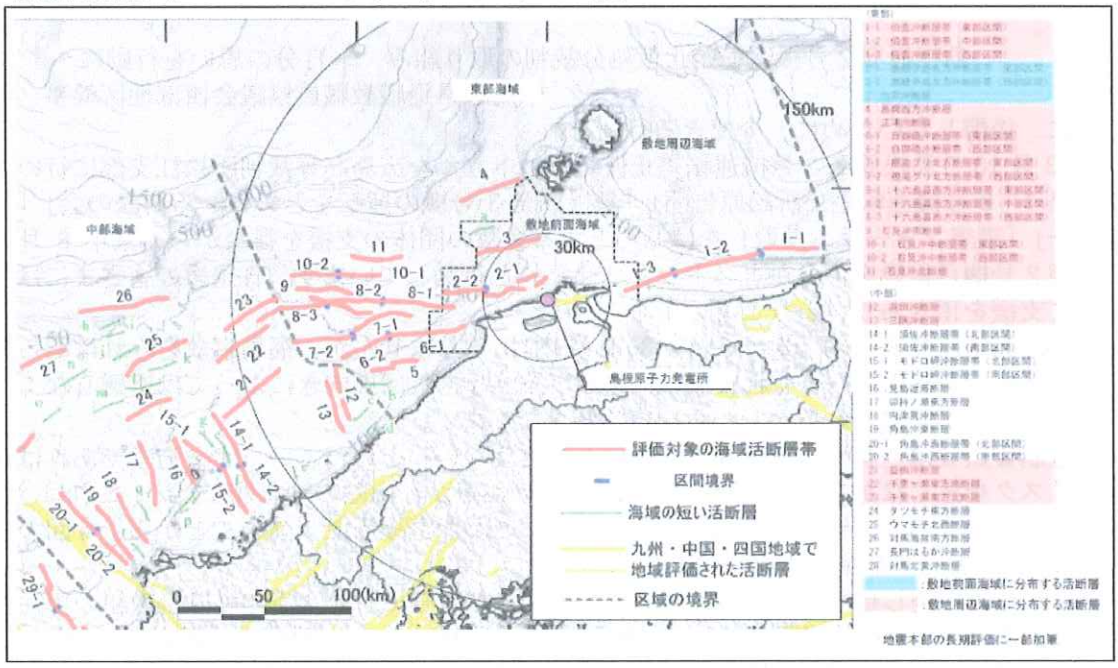
3.仮処分裁判で争点としていること　(9/25第2回審尋・裁判所へのプレゼンを中心に)

①震源極近傍地震動(震源となる活断層が非常に近い場合の地震動)について

島根原発敷地境界からわずか1.3㎞程度(中電は原子炉から2㎞と主張)という至近距離の宍道断層の地震動評価の問題です。この活断層は島根原発の建設当時に中電は「ない」といっていました。それが、専門家の指摘によって、8㎞(1審開始当初)、22㎞と伸び、現在では39㎞まで中電と国は認めています。「伸びる活断層」「成長する活断層」と言われるものです。新規制基準では、原発の至近距離に活断層がある場合、地震動を評価する際には「さらに十分な余裕を考慮して基準地震動を策定」しなければならないと規定されています。しかし、中電はその十分な余裕を考慮していない。適合性審査ではこの点の議論すらされていないという点です。

中電が「2㎞」と言っているのは、活断層の至近距離にあることを争点としたくないためです。しかし、原子炉からは2㎞でも、周辺の原発関連施設や周辺の斜面は2㎞を切ってきます。これらの施設も、基準地震動によって建設されています。福島事故をみれば、原子炉建屋だけでなく、電源喪失につながる周辺施設も重要であることは明らかです。

図１　伯耆沖断層（1－1～3・M8.1）（M7.8の2.8倍）



②地震動評価の不合理(基準地震動が余りにも低い)について

地震には「大きさ」と「強さ」という概念があります。大きさはマグニチュード(M)という単位で示され、阪神・淡路大震災、熊本地震はおおむねM7前後の大地震、M8となると関東大震災クラスの大地震にあたります。地震の強さは、普通震度で示されます。地震の大きさと強さは関連がありますが、別の概念です。震度の他にガル(gal)という加速度を表わす単位があります。震度とガルは完全に対応しているわけではありませんが、目安として右の表のとおりです(文献１一部略)。

表１　震度と最大加速度の概略の対応表

震度等級	最大加速度（ガル）
震度7	1500ガル程度～
震度6強	830～1500ガル程度
震度6弱	520～830ガル程度
震度5強	240～520ガル程度
震度5弱	110～240ガル程度
震度4	40～110ガル程度

出所：国土交通省国土技術政策総合研究所。

中電は、「島根原発では最大加速度820ガルを超える地震動は考えられない」として、820ガルという基準地震動(原発の耐震設計基準)を策定していますが、阪神淡路大震災以降、地震観測網が整備されてきた20年間あまりにおいて1000ガルを超える地震動は全国で17回、時には2000ガルを超える地震動すら記録されるようになっています(表2)。島根原発の近くでは、2000年の鳥取県西部地震1142ガル、2016年の鳥取県中部地震1494ガルがあり、820ガルという値があまりにも小さいことを訴え、「なぜ島根原発のあるところだけは820ガル以上の地震が起きないと言えるのか」説明をするよう求めています。また、国の地震ガイドの「基準地震動は観測記録や最新の知見に照らしその合理性を確認すべし」とする規定に反していて、不合理であまりにも低水準です

中電は、伯耆沖地震の評価については「マグニチュード８．１にも及ぶことが予想される伯耆沖断層による地震が、震央から８０km余しか離れていない本件原発を襲っても最大加速度１８０ガル（震度５弱相当）を超える地震動は考えられない」との地震動想定をしています。しかし、この地震動想定は、本年２月に起きたマグニチュード７．８（マグニチュード８．１の約３分の１のエネルギー量）のトルコ南部地震の被害状況等からしても考え難く、地震ガイドの上記規定に反しています。

(マグニチュードは0.1上がると地震エネルギーは約1.4倍、1.0上がると約32倍上がる。図2)

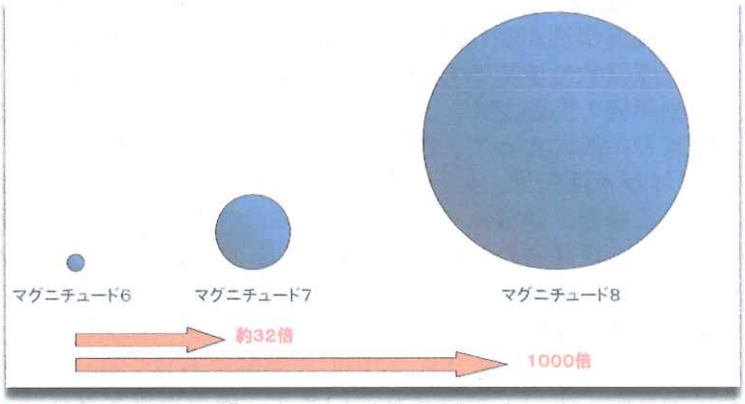


図２　マグニチュードと地震エネルギー

原発容認派の人は「原発は岩盤の上に建っており、原発の耐震設計は岩盤を基準とするのに対し、地震計は地表の揺れを基準としている。地表の揺れは岩盤の揺れよりも遥かに大きいから比較できない。」と主張します。しかし図 3 のように、全国で岩盤(解放基盤表面)が地表面より高いガル数を記録している地震も観測されています。

表 2　比較宍道断層の地震動／2000 年以降の主な地震

(最高は 4022 ガル岩手・宮城内陸地震 2008 年M7.2　下図に記載無)

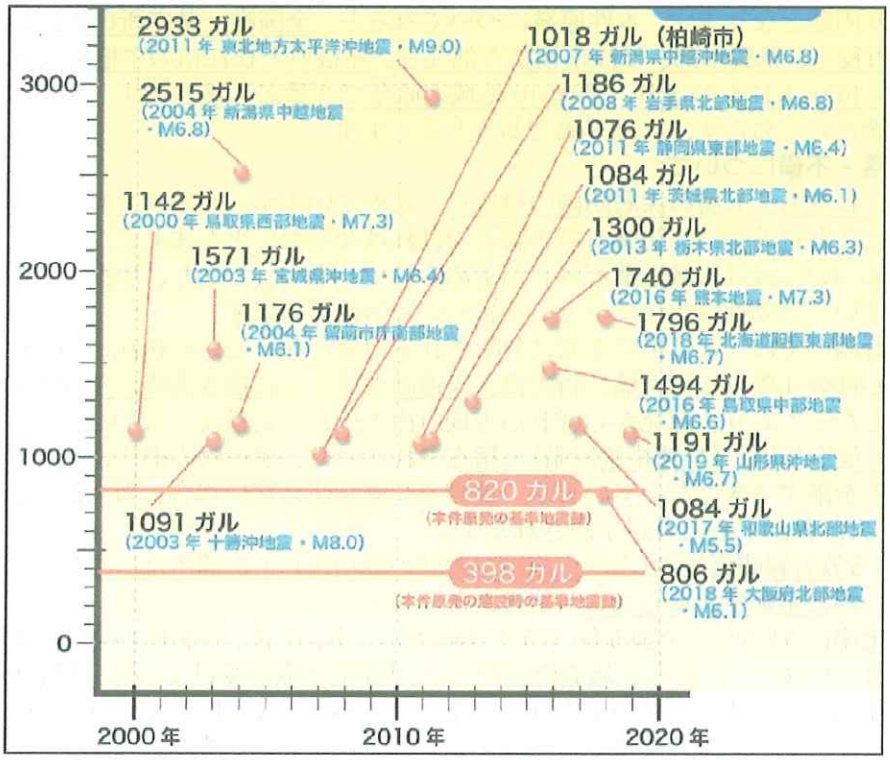
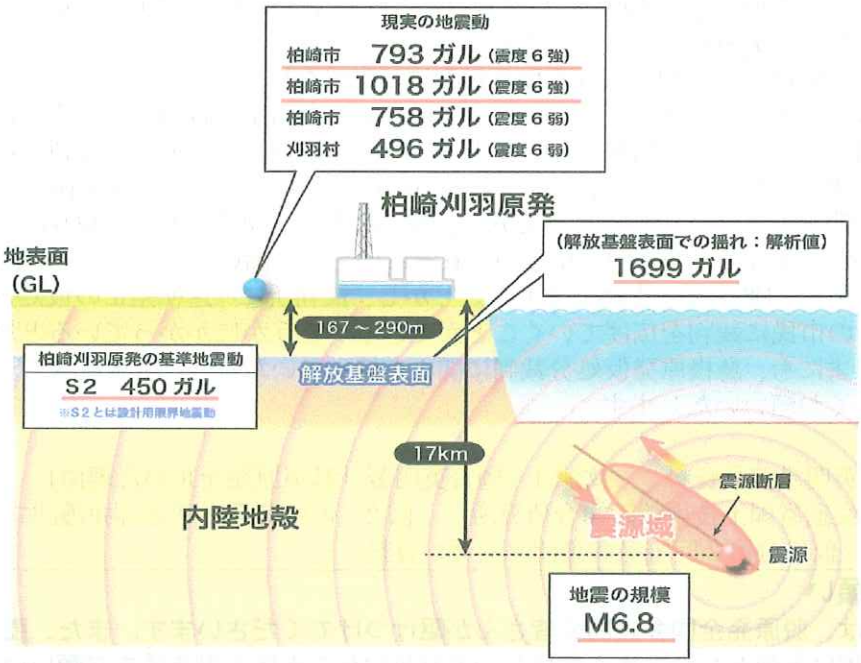


図 3　新潟県中越沖地震(2007 年 7 月 16 日)



③三瓶山の大規模噴火について

中電は大規模噴火について、大山と三瓶山の 2 つを評価しています。この内、三瓶山の大規模噴火については、約 1 万 5000 年前の三瓶浮布テフラ（SUk）噴火を想定（噴出量約 4.15 ㎥）し、敷地への最大降灰を 56 ㎝としています。しかし、約 11 万年前に発生した過去最大の大規模噴火、三瓶木次テフラ（SK）噴火（噴出量約 20 ㎥）では、原発敷地周辺に 100 ㎝を超える降灰があったことを示す地層が発見されています。中電はこれを想定していません。また、火山ガイドの不合理性が、このような評価を許している点も訴えています。

④立地不適(原発を建てるのに適していない)について

立地審査指針は、「万一の事故に備えて、公衆の安全を確保するためには、原則的に次のような立地条件が必要である。」として、原発が人口密集地帯から離れていること（離隔要件）等を規定しています。同指針は、福島第一原発事故前から現在まで改廃されていません。本件原発が福島第一原発事故と同じような事故を起こした場合、高濃度の放射性物質は80km圏内に降下し、沈着することが予想されます。そのような事態になった場合、本件原発のＰＡＺ及びＵＰＺは避難が必要となります。人口密集地帯であれば避難はより困難となります。本件原発についてみると、全国唯一県庁所在地にあり、10km圏内には、県庁、松江市役所、県警本部、松江市消防本部など、島根県と松江市の中枢施設があります。30km圏の人口は45万4691人にものぼり、全国16地域の原発で3番目の多さです。本件原発は立地審査指針の離隔要件を満たしておらず、立地不適であると言えます

⑤避難計画の欠落・不備について

福島事故以降、日本も「五層の深層防護の徹底」を求めています。つまり、原発での第四層の防護が功を奏しなかったことを前提に、防護対策を講じなければならないとしました。そして、重大な事故が起きた際の避難については「広域避難計画」が定められています。しかし、現在のこの計画は住民に被ばくを強いてしまい、実効性に欠けていることについて訴えています。

松江市の避難計画のでは「大橋川で南北に分断される地形となっている松江市内での渋滞を回避するため、松江市中心部の４橋（松江大橋、新大橋、宍道湖大橋、くにびき大橋）を極力通さない避難ルートを設定する」となっており、原発から離れる方向（南方向）へ避難できない計画です。また、4橋の内3橋が「橋梁の健全性Ⅲ」（早期措置段階）と指定されていて、構造物の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべきとなっています。地震で3橋が使えない場合、新大橋に松江市の城北・城東の約1万5000人が殺到することが予想されます。

10km圏内にある放射線防護施設(陽圧化施設で避難の際利用)の6箇所は、土砂災害警戒区域内にあり、大規模地震の際に避難所とならない可能性があります。

島根県の高齢化率は34.5%で全国5位（2021年時点）です。今後、平常時の在宅医療すら供給できない事態が予想されています。島根県広域避難計画では、「在宅医療を受けている避難行動要支援者は、他の住民と同様に屋内退避をする」と規定されているのみであり、在宅医療を受けている住民が屋内退避中に医療や介護を受けられるような避難計画は策定されていません。また、島根県のＵＰＺ内の在宅の避難行動要支援者数（2019年12月末時点）は4市で合計3万2125人（うち支援者有は7936人）、鳥取県は2市合計6995人（うち支援者有は1440人）で、要支援者の生命、身体の保護を実現できる避難計画ではないし、実現可能な体制が整えられているとはいえません。第5層の防護階層が欠けており、人格権侵害の具体的危険があると訴えています。

4.おわりに　勝訴に向けて、裁判を広げる取り組みにご支援を!

私たち原告団は、この仮処分裁判の争点を広げる取り組みを両県で行っています。7月8日に映画「原発をとめた裁判長」の上映会の開催、7月29日・30日には、「原発を止めた裁判長」の樋口英明さん(元福井地裁裁判長)に、米子市・倉吉市で講演していただきました。主催は他団体であっても、原告団や支援する会が共催・後援という形を取りながら、多くの市民・団体とともに取り組んでいます。

9月25日の第2回審尋で、弁護団と中電のそれぞれの主張を聞いて、完全に私たちの主張が論理的であり、正当性があり、「勝てる」と感じました。しかし、裁判所に「運転差止の仮処分」判決を出してもらうには、多くの市民に裁判を広げていくことができるかどうかにかかっていると思っています。全国の日退教の皆さまにも、島根原発仮処分裁判に関心を持っていただき、引き続きご支援を頂けたらと思います。よろしくお願いいたします。

出典　図1　樋口英明講演会資料　　文献1　樋口英明著「私が原発を止めた理由」
表1　国土交通省国土技術政策総合研究所　　図2　仮処分第2回審尋弁護団プレゼン資料
表2・図3　仮処分第2回審尋弁護団プレゼン資料

※カンパのお願い

仮処分裁判では、脱原発全国弁護団の皆さんが駆けつけてくださいます。また、膨大な証拠書類の提出などの費用は多額となります。皆様からの財政的なご支援を引き続きお願いいたします。

団体ご寄付：一口　１０，０００円～　個人ご寄付：一口　１，０００円～

振込先（郵便振り込み）

口座番号　０１３００－１－６１１８７　口座名義　島根原発差止訴訟原告団

※メルアドの連絡のお願い

名前・住所を下記メルアドに送って頂くと、裁判関係の情報を送ります。

島根原発2号機仮処分裁判事務局　shimane.karishobun@gmail.com